多摩大学地域プロジェクト
2009年度報告書

多摩大学地域活性化マネジメントセンター

目次

◆プロジェクト型地域学習の紹介 …… 2

◆2009年度多摩大学プロジェクト報告会　次第 …… 3

◆「湘南」モデル研究
望月照彦ホームゼミ …… 4

◆猪苗代観光開発研究
浜田正幸ホームゼミ …… 8

◆東京ヴェルディ地域活動支援
久垣啓一ホームゼミ …… 16

◆「公民連携ビジネスプランニング」　放課後児童の居場所づくり研究
片桐徹也EXゼミ …… 19

◆公園マネジメント研究
久垣啓一ホームゼミ …… 23

◆多摩センター地区活性化研究
酒井麻衣子ホームゼミ …… 27

◆多摩の手土産づくり支援
久垣啓一ホームゼミ …… 31

◆「多摩市のシティセールス」多摩観光ガイドブック作成
中庭光彦EXゼミ …… 35

◆多摩ニュータウン活性化研究
インターゼミ　「わっしょい！ TAMAチーム」 …… 38

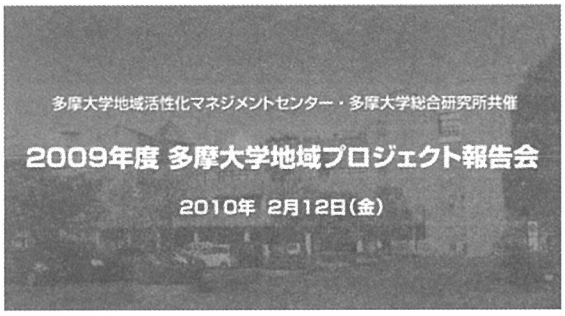
◆東鳴子温泉活性化研究
インターゼミ　「東鳴子温泉活性化チーム」 …… 43

◆「集客施設のマーケティング」サンリオピューロランドの課題解決　イベントの運営
松本祐一EXゼミ …… 49

◆プロジェクト型地域学習の評価
酒井麻衣子　経営情報学部准教授・地域活性化マネジメントセンター委員 …… 54

◆参加教員のコメント …… 57

プロジェクト型地域学習の紹介



地域プロジェクト学習とは?

学習者が地域という現場で具体的なプロジェクトを動かす実感を得ながら、必要な理論や手法を学んでいくこと。

地域プロジェクト学習の3つの背景

1. 多摩大学は創立以来、プロジェクトを通じた実践的な学習を特にゼミ単位で行ってきた伝統がある。
2. 多摩大学総合研究所が「地域経営に関する研究と教育」を事業領域に設定し、多摩地域の行政、企業、市民団体等とつながりをつくってきた。
3. 地域活性化や地域経営に携わる人材の育成が急務である。

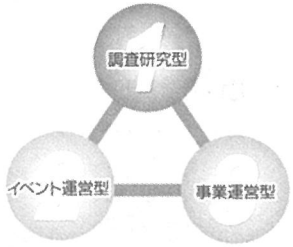
多摩大学地域活性化マネジメントセンター

Tama University Center for Regional Development
略称：CRD

地域との連携を全学的に展開していく組織として設立。

・多摩を中心に全国の地域と連携した教育プロジェクトをバックアップ。
・地域における調査、イベント企画運営、事業化支援等、多摩大 20 年の伝統でもあるプロジェクト型地域学習を実施。

プロジェクト型地域学習 ー 三つの形態



プロジェクト型地域学習 ー 三つの形態

教育の相乗効果
経営を実感する場 経営の目的・成果の評価、
課題の発見、提言の制作と実施
「現場の知」から経営を担える人材の育成

多摩大学地域活性化マネジメントセンター・総合研究所共催

2009年度　多摩大学地域プロジェクト報告会　次第

日時：2010年2月12日（金）

（開場12:30）13:00～17:00【交流会17:20～19:00】

場所：多摩大学　多摩キャンパス　101教室

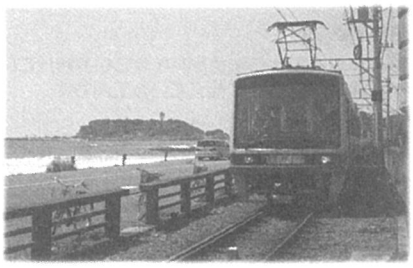
司会進行：中庭光彦（総合研究所准教授・地域活性化マネジメントセンター）

時間	次第				登壇者・発表者
13:00	開会の挨拶				諸橋正幸（地域活性化マネジメントセンター長）
13:05	多摩大学地域活性化マネジメントセンターとプロジェクト型地域学習のご紹介				中庭光彦
	地域プロジェクトの成果発表				
		テーマ	プロジェクト類型	内容	発表者
13:15		「湘南」モデル研究	調査研究型	教員からの概要説明	望月照彦教授
				学生からの発表	望月照彦ホームゼミ
13:30		猪苗代観光開発研究	調査研究型	教員からの概要説明	浜田正幸准教授
				学生からの発表	浜田正幸ホームゼミ
13:45		東京ヴェルディ地域活動支援	イベント運営型	教員からの概要説明	久恒啓一教授
				学生からの発表	久恒啓一ホームゼミ
14:00		放課後児童の居場所づくり研究	調査研究型	教員からの概要説明	片桐徹也客員准教授
				学生からの発表	片桐徹也EXゼミ「公民連携ビジネスプランニング」
14:15		公園マネジメント研究	調査研究型	学生からの発表	久恒啓一ホームゼミ
14:30		休憩			
14:45		多摩センター地区活性化研究	調査研究型	教員からの概要説明	酒井麻衣子准教授
				学生からの発表	酒井麻衣子ホームゼミ
15:00		多摩の手土産づくり支援	事業運営型	学生からの発表	久恒啓一ホームゼミ
15:15		多摩観光ガイドブック作成	調査研究型	教員からの概要説明	中庭光彦准教授
				学生からの発表	中庭光彦EXゼミ「多摩市のシティセールス」
15:30		多摩ニュータウン活性化研究	調査研究型	学生からの発表	インターゼミ「わっしょい！TAMAチーム」
15:45		東鳴子温泉活性化研究	調査研究型	教員からの概要説明	インターゼミ「東鳴子温泉活性化チーム」
16:00		サンリオピューロランドの課題解決イベントの運営	イベント運営型	教員からの概要説明	松本祐一准教授
				学生からの発表	松本祐一EXゼミ「集客施設のマーケティング」
16:15	プロジェクト型地域学習の評価				酒井麻衣子（地域活性化マネジメントセンター）
16:55	閉会の挨拶				久恒啓一（総合研究所所長・地域活性化マネジメントセンター副センター長）
17:00	閉　会				
学食へ移動					
	交流会				
17:20		開会の挨拶			諸橋正幸（地球活性化マネジメントセンター長）
		懇談・ゲストのコメント、学生の感想など			
18:55		閉会の挨拶			学生代表：冨士道　惇
19:00	閉会				

望月照彦ホームゼミ

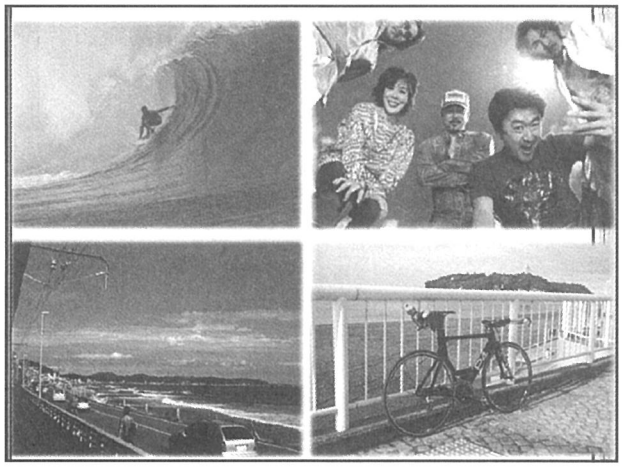
「湘南」モデル研究

望月ゼミ
「地域は創造する」
～“湘南”を世界モデルへ～



目次

- はじめに
- 湘南への夏合宿
- 現在の取り組み
- 終わりに



はじめに

なぜ湘南に焦点をあてるのか？

湘南の人気の秘密を解き明かす！

↓

湘南を更に世界的な希望の地域に育て
創造することで、多くの人に勇気と元気
を提供できるのでは？

夏合宿での活動

一日目

○博古堂
地域ブランドを見学しました。

↓

○フィールドワーク
各班に分かれ、テーマに合わせ湘南の街を歩きました

↓

○グループワーク
その後宿舎で各班のテーマにそって先輩方の助けももらいながら議論を交わし自分たちの湘南論をまとめました。

鎌倉彫

○ 鎌倉彫りの歴史
鎌倉彫りは鎌倉時代から作られている伝統的工芸品である。

博古堂

○ 博古堂の歴史
450年以上前から鎌倉彫りを今もなお続けていらっしゃる鎌倉彫りを今に伝えている工房です。

二日目

○ 発表
翌日、地元の新聞記者の方などの湘南の方々を前に各班の湘南論について発表していきました。

クイズです

第一問

○ 今回私たち望月ゼミは鎌倉彫りを○○堂に見学しに行ったでしょうか？

1、ハッコ堂

2、コハク堂

3、ハチコ堂

回答　1、ハッコ堂（博古堂）

第二問

○ 博古堂はなにを制作しているところでしょうか？

1、鎌倉彫り

2、湘南彫り

3、望月彫り

正解　1、鎌倉彫り

第三問

○鎌倉彫りの始まった時代は鎌倉時代ですが、鎌倉幕府は何年から始まったでしょう。

1、1192年

2、1185年

3、2010年

正解　2、1185年

現在の取り組み

・湘南ブランド論

・湘南

・湘南

・湘南ツー

・湘南比較地域論

各班が調査・分析したこと
↓
原稿作成中
↓
本の作製へ！

終わりに

・普段イメージしている湘南の別の顔を見ることができ、新たな発見や見解が生まれました

・伝統を守り、受け継いでいこうという地域の人の声が聞けたこと

・今後夏合宿で体験した経験を生かし新しい湘南の観光モデルを創造していきたい

ご静聴ありがとうございました

浜田正幸ホームゼミ

猪苗代観光開発研究

猪苗代観光開発研究

現地調査結果を中心にして

2010年2月12日

多摩大学 経営情報学部
浜田ゼミ
猪苗代プロジェクトチーム

背景と問題意識

猪苗代町は、猪苗代湖や五色沼、桧原湖、磐梯山など豊富な観光資源を有している。しかも、東京から3～4時間のアクセスというロケーションの条件もよく、まさに日本有数の観光地といえるだろう。

しかし、最近の観光データによれば、平成20年度の観光入込客数は前年比約マイナス25%、207万人で、200万人台を割りこむ直前にまで落ち込んでいる。

そこで多摩大総研の松本先生と、問題解決型の実践教育を標榜する浜田ゼミでプロジェクトを発足し、猪苗代町観光事業に関する現地調査を実施するにいたった。

1

目的

本プロジェクトの目的をつぎに示す。

猪苗代町における観光に関する実態調査をすることにより、今後の観光促進策に資するものとする。

上の大目的を遂行するために、次の小目的を設定する。

① 猪苗代町の観光事業の現状を分析する
② 猪苗代町の観光資源を掘り起こす（再認識する）
③ 猪苗代町に来た観光客の行動・意識を分析する
④ 観光地としての猪苗代町の認知度、観光意向を分析する
⑤ 観光促進策を提案する

2

先行調査

観光客動態調査速報　猪苗代観光協会

猪苗代観光協会が平成20年8月5日から31日まで同協会の会員の宿泊施設および、野口英世記念館、世界のガラス館、バスの乗降客にアンケートを実施。有効回答は466であった。

首都圏からの観光客は54.3%　県内からの観光客は16.4%

中高年が占める割合が圧倒的　年齢層は40代が23%、50代が23.4%、60代以上が23.4%

グループ構成は2人から友人同士、家族連れが多く来訪している。

交通機関は77.7%が車で来訪し、バスの利用者も増加の傾向にあるという。

来訪回数については、5回以上のリピーターが42.3%を占めている。

猪苗代の魅力について、**自然景観と温泉と回答した人が83.1%**と大多数で、味覚と答えた9.1%の意見から、魅力度をアップすることを望んでいる。

3

先行調査（地元での聞き取り調査から）

これまでの地元の観光客に対する認識

猪苗代の観光はスキー客が中心である。

大部分の観光客は首都圏から来ている。

観光客は中高年がほとんどである。

友人、知人同士で来る人たちが多い。

スキー以外の季節では、観光施設（野口英雄記念館、ガラス館など）の来館がメインである。

会津地方に観光客がとられ猪苗代は通過点となっている。

4

観光活性化に関する先行研究

観光資源の分類

足羽洋保（1991）による4分類

①自然的資源

②文化的（人文的）資源

③社会的資源

④産業的資源

事例

徳島県上勝町「葉っぱビジネスで町おこし」
①の例

会津若松「大河ドラマ＝直江兼続」
②の例

	内容
自然的資源	(1)天然資源 a.風景　b.温泉　c.動植物・野生生物 (2)天然現象 a.気候・風土 b.気象　c.自然現象 d.天体観測
文化的（人文的）資源	(1)有形文化財　(2)無形文化財 (3)民族文化財　(4)史跡　(5)名勝 (6)天然記念物　(7)伝統的建造群 (8)歴史的風土　(9)風土記の丘 (10)歴史的港湾環境
社会的資源	(1)有形社会資源　a.都市　b.都市公園 c.教育・社会・文化施設 d.テーマパーク等 (2)無形社会資源　a.人情・風俗・民話・行事など b.国民性・民族性 c.衣食住・生活 d.芸術・芸道・芸能・スポーツ
産業的資源	(1)工業施設 (2)観光農林業　(3)観光牧場 (4)観光漁業　(5)展示施設

5

観光活性化に関する先行研究

■京都府美山町の活性化事例

日本の山里にある民家の屋根といえばかやぶきであり、川は澄み、山には四季を感じさせる色がある。40年前には当たり前だった風景が、今でも美山町に残っている。美山町は京都府のほぼ中央に位置し、人口約5,600人、町域面積は340.5km²と府内町村一、近畿内町村では2番目に大きな町である。昭和30年ごろ、人口は10,000人を超え、農林業全盛期であった。しかし、約5年後の昭和35年を境に高度経済成長の影響を受け過疎が始まった。平成2年には5,479人とほぼ半分になった。

町づくり活動として、「田んぼは四角に心は丸く」というスローガンのもと、国・京都府の補助事業を導入し、土地基盤整備を中心に実施した。平成元年に役場に「村おこし課」を設置、旧村単位に「村おこし推進委員会」を設置、地域住民自らの創意・工夫による村おこし事業、特に都市との交流事業を推進していった。同年、都市住民との交流拠点として「美山町自然文化村」を開設した。平成5年、北地区が文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたことにより、町全体へのかやぶき保存の気運も高まり、「かやぶきの里」としてのスタートの年にもなった。

この活動の結果として平成12年の観光入込客総数約50万人、美山町自然文化村利用客数11万人と町人口から考えると驚くほどの人々が訪れている。スローガンや町の呼称等、全体的に活動にイメージ付けをするものが目立っているように思われる。また観光入込客の多くが美山町自然文化村を利用していることが分かる。そのため、観光客を得るためには都市住民との交流が必要であるといえる。

6

調査の概要

- 小目的①～④を各項調査し分析した後、結果として表れた問題点を解決し、小目的⑤を達成していく。

① 猪苗代町の観光事業の現状を分析する
② 猪苗代町の観光資源を掘り起こす（再認識する）
③ 猪苗代町に来た観光客の行動・意識を分析する
④ 観光地としての猪苗代町の認知度、観光意向を分析する
⑤ 観光促進策を提案する

7

調査方法

① 猪苗代町の観光事業の現状を分析する

■インターネットや、猪苗代観光協会様のご協力をもとに、猪苗代町の観光データをチェック。

■インターネットで他の観光地の観光データをチェック。

■猪苗代観光施設の現状をアンケート調査。

■現地の見聞調査（フィールドワーク）

■観光協会へのインタビュー調査

集計・分析方法
アンケート調査結果をコーディングし、データとして入力。
記入されたデータや意見をもとに、猪苗代の現状を分析。

8

調査方法

② 猪苗代町の観光資源を掘り起こす（再認識する）

■観光施設へのアンケート調査で自由記入を求める。

■観光施設従業員、観光客にインフォーマルなインタビューを実施。

■ふるさと歴史館の資料を調査。

集計・分析方法
アンケートに記入された意見を、データとして入力。
インタビューで得られた意見や、歴史館資料をもとに観光資源を分析。

9

調査方法

③ 猪苗代町に来た観光客の行動・意識を分析する

■猪苗代観光施設に来訪した客へアンケート調査。

■猪苗代観光施設に来訪した客へ、インフォーマルインタビューを実施。

集計・分析方法
インタビューの結果をアンケート用紙に記入し、データとして共に入力。
データを仮説に基づきクロス分析などを行い、問題を深く探る。

10

調査方法

④ 観光地としての猪苗代町の認知度、観光意向を分析する

■インターネットによる調査をする。

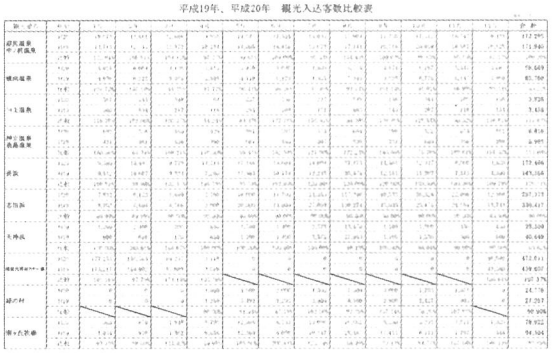
■観光客へのアンケート調査をする。

集計・分析方法
インターネットのキーワード検索を用いた分析を行い、観光意向を分析。
アンケート結果はデータとして入力、分析。

11

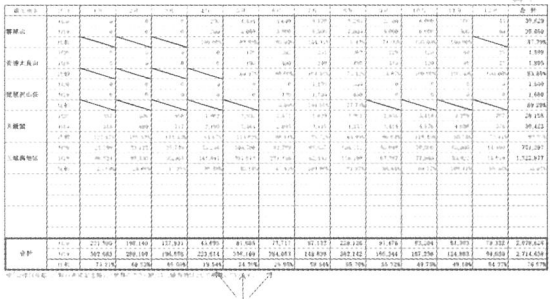
猪苗代観光に関する現状分析「入込客数の推移」

平成19年、平成20年　観光入込客数比較表



12

平成19年、平成20年　観光入込客数比較表



激減

13

- アンケートの実施日
  2009年9月21日、22日
- 実施場所
  緑の村・野口英世記念館・道の駅（裏磐梯）・天鏡閣・メローウッドゴルフクラブ・南ヶ丘牧場・ある日記・木輪・ホテルマウント磐梯・宝来堂・㈱町づくり・ヴィラ　イナワシロ・三万石・ホテルみなとや・ペンションホワイト
- 回答数
  観光客　426
  施設　　11

学生の強み（時間とマンパワー）を最大限に活かした調査

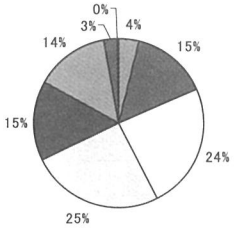
14

調査結果・施設アンケート

- 全ての施設が現在の猪苗代観光の現状に問題を抱き、改善を必要としている。
- 大きな観光施設は「年々、観光客が減っている」と答えているのに対し、一部の小さな施設では「年々、観光客は増えている」と回答していた。

15

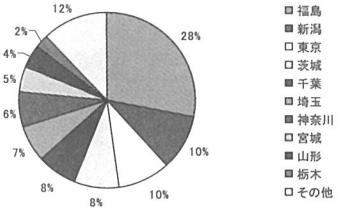
調査結果・観光客アンケート(年代)



この結果からは30・40代の観光客が全体の5割を占めている。
この値はちょうど小さな子供を連れた親の年代である。
また、10・20代の割合よりも、50・60代の割合のほうが多い。

16

調査結果・観光客アンケート(在住地)

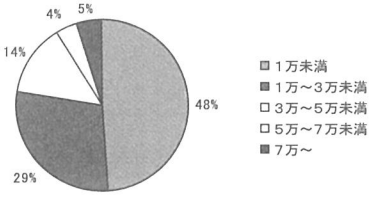


左記のグラフからは猪苗代に訪れる県の割合は福島県が3割近くを占めていることがわかる。

また近隣の県や関東圏から猪苗代に訪れる客が多く、遠方から訪れる客が少ないことが分かる。。

17

調査結果・観光客アンケート(予算)

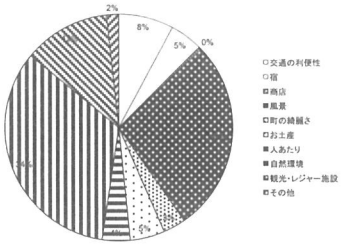


全体の内の約半数が1万円未満での予算と回答していた。

猪苗代には予算を少なく抑えようとしている客が訪れている様子がある。

18

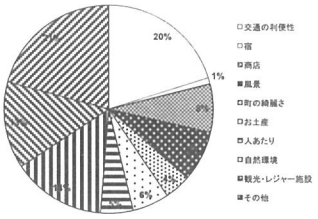
調査結果・観光客アンケート(良かった点)



グラフを見ると、猪苗代にきて良かったと感じるものとして、風景、自然環境があげられるが、その次に挙げられるのは、観光レジャー施設である。猪苗代出身である野口英世の記念館や、子供も遊べる南ヶ丘牧場などが例として挙がる。

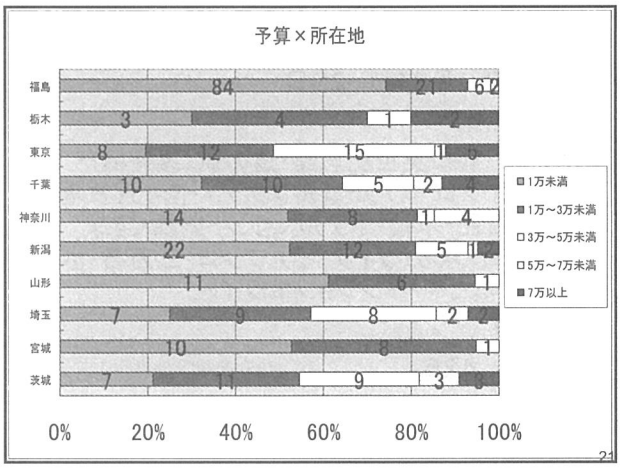
19

調査結果・観光客アンケート(悪かった点)

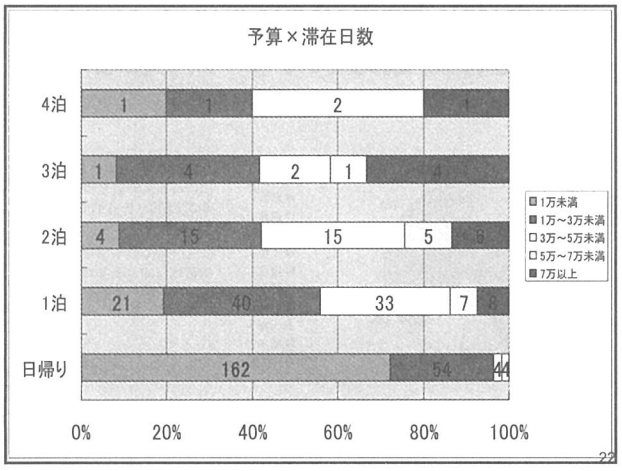


この結果では、悪かったと感じる点がないという方の多くは、その他として回答している。
調査の結果、その他は21%である。
交通の利便性を回答した割合が多いのは車でないと移動する手段がないことと、渋滞の時期にぶつかったことが要因であると考えられる。

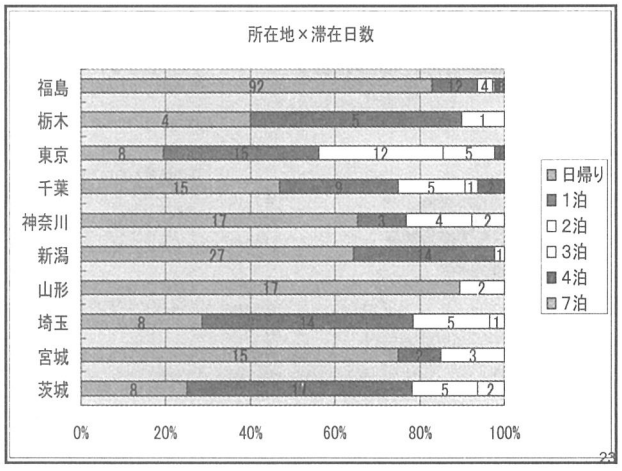
20



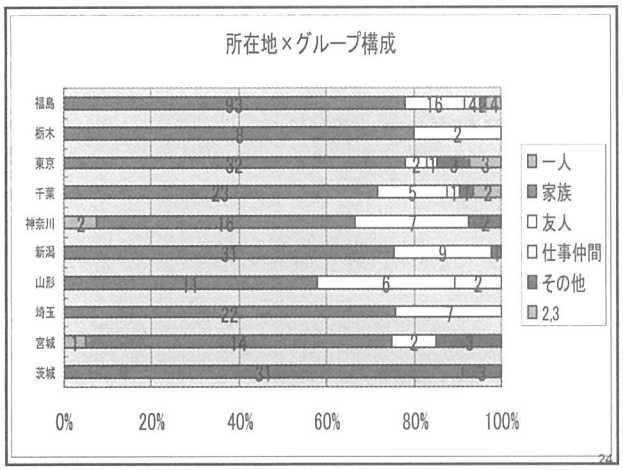
21



22



23



24

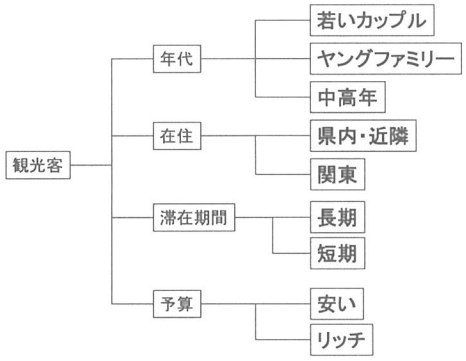
観光促進の考え方

■スキーの一本柱ではこのままだとかなり厳しいと思われるので、他の多様なニーズに答えられるような様々な観光スタイルを提供する。

■長期滞在型観光プランの必要性は確かだが、実際は日帰りや1泊で猪苗代に来る観光客が多いので、短期滞在型観光プランが必要である。

25

セグメンテーション



26

若いカップル

■桃狩り

スイーツに負けないような名産を味わってもらう

■記念写真を撮るスポット

たくさん観光スポットはあるが、
ここで写真を撮ろうというスポットがない。

27

ヤングファミリー

■蕎麦うち体験

自分で打った蕎麦を食べてもらう

■子供の料理コンテスト

子供が両親へ弁当を作ってあげる

■キャンピングカーのレンタル

家族で滞在の機会を作る

■猪苗代で子供を育もう！

妊婦さん旅行、出産割引

28

中高年

■ビアガーデン

お酒を飲むところが、見当たらない。

■大人の修学旅行

昔を思い出すことができるようなツアー

29

県内・近隣

■家庭菜園教室

週1日猪苗代へ通ってもらう

■雑誌の持ち込み企画

地方版の旅行雑誌へ依頼

■同窓会の旅

猪苗代のロケーションをアピール

30

関東

■地元民付きツアーガイド

住民の方に付き添って頂いて、猪苗代を深く知ってもらう

■天体観測

猪苗代の夜の環境を使って、楽しむ

■デトックスツアー/森林浴しながらオイルマッサージ

猪苗代の野菜や森林を活かしたツアー

■カー割

猪苗代を訪れる上で大変重要な車の負担を減らす

31

長期

■ボーイスカウト

猪苗代にある豊富な自然環境と触れ合う。

■山村留学

農山村地域住民に協力してもらい、地元農家に下宿。

32

短期

■ツーリングプラン・コース

日帰りで猪苗代を回りつくすためのプランやコース作り

■ワインつくり体験

猪苗代のワイン工房で体験

33

安い

■安くすんだらイ～ナワシロ

フリーペーパーの作成(観光名所情報＋割引券＋食事処)

■手形の発行

温泉、蕎麦屋、観光地

■写真コンテスト

写真をホームページに投稿する

34

リッチ

■湖でできる水上スキー

夏でも猪苗代湖の上をスキー

■スカイダイビング

猪苗代の上空からの極上の眺めを満喫

■セカンドハウス

別荘という感覚で猪苗代の生活を味わう

35

まとめ

■ハードにのみこだわるだけではなく、ソフトにこそこだわる

■一過性のものではなく、継続して行っていけるような案を提案した。

■誰でも・いつでも・ちょっと・猪苗代

36

残された課題

■今回の調査では猪苗代観光において重要な冬についての調査が行えなかった。

→ 現在、フェーズ2プロジェクトが立ち上がり
２～３月でスキー客調査実施予定。

■日本人の旅行客がこれからどのような観光の形をとっていくのか、ニーズがどうなっていくのかを調査する必要がある。

37

ご清聴ありがとうございました。

38

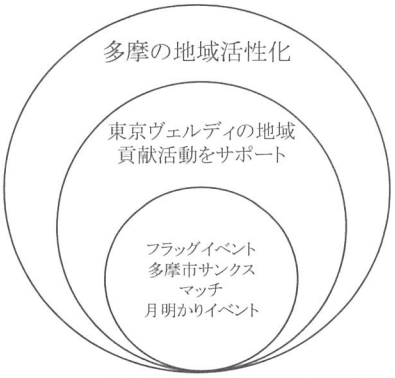
久垣啓一ホームゼミ

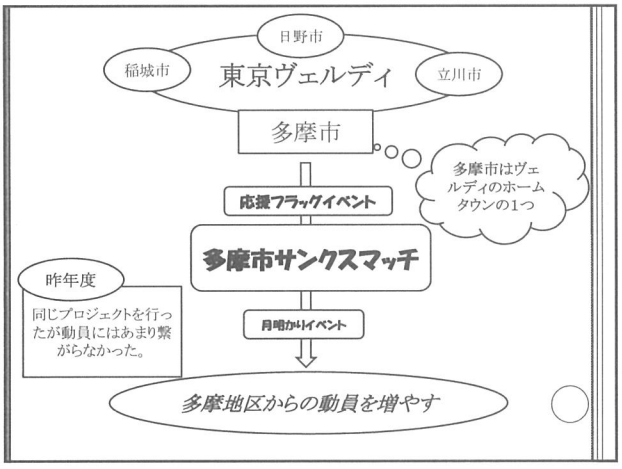
東京ヴェルディ地域活動支援

久恒ゼミ
東京ヴェルディプロジェクト班

寺下 大志　高倉 徹
内藤 広基　碇 那之
土田 和哉　笠 勇夫
西口 成峰　山口 渉

プロジェクトの概要（目的・経緯）





イベント報告

応援フラッグイベント(9月5日・6日)

多摩市サンクスマッチ（9月13日）

夢明かりイベント(12月5日)

応援フラッグイベント　9月5・6日　IN永山名店街

＜目的＞
地域で応援フラッグを作ることで、多摩市サンクスマッチに行くきっかけ作りにする。

- フラッグイベント当日は、永山名店街のお祭りがあり、多摩地域の人に多摩市サンクスマッチの告知とヴェルディ応援の意識付けをした。
- お祭りということで、近所の子供たちがたくさん遊びに来ていて、その子たちにフラッグを作ってもらった。
- ゼミ生が、ヴェルディ君の着ぐるみを着て子供たちとコミュニケーションを図った。

多摩市サンクスマッチ

9月13日ザスパ草津戦　IN味の素スタジアム

・9月5日・6日と同様
　多摩大学応援フラッグイベント作成会

・ベストフラッグ最優秀賞（大黒選手サイン入りシャツ）とベストフラッグ優秀賞とベストフラッグ多摩大賞（ゼミ生で作ったミサンガ）の決定。

・アンケート調査

夢明りイベント

12月9日　IN永山商店街

・箱根駅伝に参加する国士館大学の学生の壮行会
・ゴスペルグループとピアニストによる演奏
・地元の小学生が紙袋に描いたヴェルディ君やキティちゃんの絵を点灯

アンケート結果

多摩市サンクスマッチ当日、来場者から計260枚のアンケートをとった。

- 多摩市の観客のサンクスマッチの認知経路は、子供(学校)からが半分以上を占めていた。
- 来年の多摩市サンクスマッチを楽しみにしている人が、ほぼ100%に近い。
- 年齢層は30代・40代がほぼ占めている。10代、20代をもっと引っ張るべき。
- リピーターを大事にする。(多摩市在住の方はビギナーの方が多い。)
- 多摩市サンクスマッチ当日行ったイベントの中でフラッグ作りが、多摩市在住の方からの評価だと第3位。5人に1人に楽しんでもらえた。(18.5%)

成果

フラッグイベント

永山祭りのフラッグイベントで作ったフラッグを持ってきてくれたらサンクスマッチ当日ミサンガを配る。

永山祭りのフラッグイベントのときに子供とのコミュニケーションをたくさん取った。

結果

フラッグイベントで作ったフラッグを持ってきてくれた子供が1人から9人に！

アンケート

アンケートBOXの設置場所を改善。去年個人情報について苦情が来たのでBOX自体を改善。

アンケートの回収率を上げるためにハーフタイムと試合終了後に回収を行った。

結果

アンケートを260人分かいしゅうすることができた。回収率は約30%に達した。

問題点

アンケート

~~アンケートBOX自体が小さ~~すぎたため、試合終了後にはBOXがいっぱいになっていて、うまく入りきらなかった。

アンケートBOXが地味で分かりづらく、声をかけないと入れる人が少なかった。

課題

アンケートBOXは大きさ、色、設置場所など、まだまだ改善の余地があるので、そこを改善する。

フラッグイベント

サンクスマッチだから試合に来ているので他の試合に来ない。

フラッグイベントで知り合った子供たちとその親御さんたちにどうやってスタジアムに来てもらうか。

課題

子供だけではなく親御さんともコミュニケーションをとる。
そしてもっと地域イベントにヴェルディを取り込み認知度を上げる。

自分たちが感じたこと、変わったこと

- フラッグを作る人たちとコミュニケーションを取り、コミュニケーション能力を高め、多摩市民みんなでヴェルディを応援しようという意識を作り上げることができたと感じている。
- フラッグイベントに対して子供たちの反応はとても良く、1人の子が2・3子作っている場面も見られフラッグイベントやりがいを感じることができた。
- たった1人の観客の心を動かす難しさ・大変さを感じた。

片桐徹也EXゼミ

「公民連携ビジネスプランニング」
放課後児童の居場所づくり研究

テーマ：公民連携（PPP）ビジネスプランニング

放課後児童の居場所づくり　～公民連携ビジネスプランニング～

多摩ﾆｭｰﾀｳﾝ一開発から40年
急速に進む高齢化・少子傾向
廃校10校　→将来16校（多摩市内）
狭小な賃貸住宅の間取り
→終の棲家とならない
街の経営管理者不在
価値減少→ゴーストタウン化？

登場が期待される地域内媒介役！
❖多摩大学地域づくり創造ゼミ
（官学連携ｱﾌﾟﾀｰｽｸｰﾙ経営構想）
・地域問題総合リサーチ
・ﾋｱﾘﾝｸﾞ訪問（行政・児童施設・民間事業者・鉄道事業者・生協・農協・外国人）
→ﾋｱﾘﾝｸﾞ先に可能性調査発表・提案
新たな「公」／地域経営モデルの創出

都心問題	Tama・可能性
人口集中 保育所不足 待機児童増大	廃校10→将来16校 狭小住宅→Nikoichi （2戸→1戸） ストック活用
労働人口の減少 →ﾜｰｶｰ確保「困難」 子育て問題	高齢者の急増 多世代交流　可 地域大学　未連携 定期券収入減傾向
先進大手企業による企業内保育所開設などで女性ﾜｰｶｰ確保	開発者（UR・都）の撤退で、街管理者不在 地域大学・沿線鉄道事業者・行政連携 地域経営手法　可
中小企業の退場？ 都市の衰退化？	徹底的な子育て支援→街Genki再生

学生２人が自ら繰り広げた一年間

～少人数ならではの、それぞれの興味・視野に応じて～
民間経営・官直営・官民連携のパートナーシップの可能性
己は　地域のプレイヤー？　サポーター？　コーチ？

↓

現実社会に接する
当事者意識
自らの興味・課題とシンクロさせる

放課後児童の居場所作り

～官民学連携の視点による
永続的地域運営のために～

ＥＸ片桐徹也ゼミ

柏崎俊　　渡部亜裕子

今回の調査でお世話になった方々

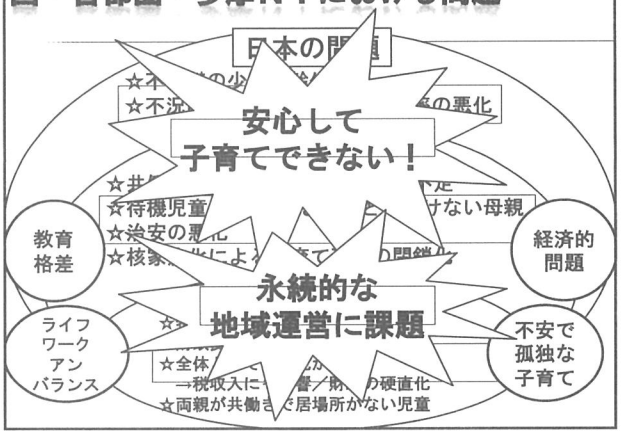
× 諏訪小学校　鈴木校長先生
× 株式会社キッズベースキャンプ　島根社長
× 京王電鉄企画開発部　秋田さん
× ＮＰＯコドモ・ワカモノまちing 中田弾さん
× ゆう杉並多摩市役所

ありがとうございました！

【目次】

× 国・首都圏・多摩ＮＹにおける問題
× 問題解決のための提案
× 多摩ＮＴの恵まれた資源とその活用
× 長期的目線の地域運営のためのＰＰＰ
× 子育て環境充実の一環「*放課後児童の居場所作り*」
× 多摩ＮＴの長期的運営と多摩大学
× 感想と課題

国・首都圏・多摩ＮＴにおける問題



問題解決案の提案

× ***多摩ニュータウンは子育て環境の充実によって永続的な地域経営を行うことができる***

子育て環境の充実
↓
子育てと仕事を両立しやすい環境
↓
労働人口の増加 / 育児世代の増加（住人誘致・子育て推進）
↓
より活気のある街へ

多摩ニュータウンの恵まれた資源

× 豊富なＮＰＯ団体
× 複数の近隣大学
  × 多摩、法政、大妻、恵泉、帝京、国士舘、中央etc
× 豊かな自然
× 多くの余剰施設
× 有能なリタイア世代人材

長期的目標に向け
枠組みを超えた
協力体制・地域運営の必要性

長期的目線の地域運営とＰＰＰの活用

≪民間≫
・経営ノウハウ
・充実したサービス
・競合との競争
→顧客満足

×

≪行政≫
・公的資金投入
・余剰施設の提供
・サービスの大規模普及
→平等な機会提供

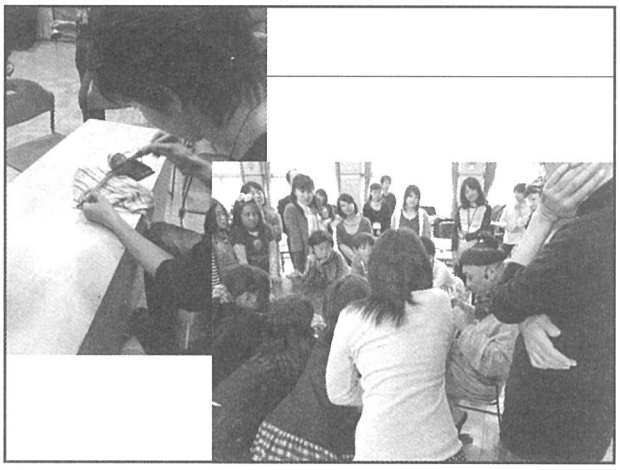
→子育て支援サービスの充実・
利用しやすい環境作りへ

一環としての「*放課後児童の居場所*」

× 現在３つのプランが進行中
  ＋ 諏訪小学校放課後教室
    ＋ 諏訪スーパー跡地・諏訪商店街（すくらんぶる一む）地域の食堂
× 学校終業時以降に子供たちが集う
  学校でも家でもない「第３の居場所」
× 最長10時までの預かり目標
× 地域住民や大学生がステークホルダーとして参加
× ステークホルダー
  ＋ 法政大学・大妻大学・多摩大学の教員と学生
  ＋ ＮＰＯ/多摩子ども劇場の方々
  ＋ 諏訪小学校教員の方々、ＰＴＡの方々
  ＋ 近隣住民の方々

多摩ＮＴの長期的運営と多摩大学

× 多摩ＮＴの将来は多摩大学の将来
× 寺島学長の地域志向
× 地域のために多摩大学ができること
  ＋豊富な地域資源との仲介役
  ＋経営学を活かした試算や運営システムの構築
  ＋成功例などの実例調査と応用
  ＋地域に向けたニーズ・シーズ調査と活用
  ＋国際交流機会の提供（特にアジア圏）
× 来年のゼミ活動に向けて
  ＋サービスラーニングセンターの始動



2009年度プロジェクトゼミを終えて

- 多摩ニュータウン諏訪地域のケーススタディ
- 地域小学校の現状を目の当たりに
- 地域資源を活かした地域活性策
  →大学、大学生の関与、連携（パートナーシップ）
- 様々な主体の事情を理解(視察ヒアリング)
  【官・民（住民・企業）・学】
- 自らの将来、自らが主役の人生、自らが発信する活動へ
- 現在の立ち位置を活用（体験）

多摩大学（生）としての地域との関わり
その延長上にある自分の将来を見てみよう

ご清聴ありがとうございました

久垣啓一ホームゼミ

公園マネジメント研究

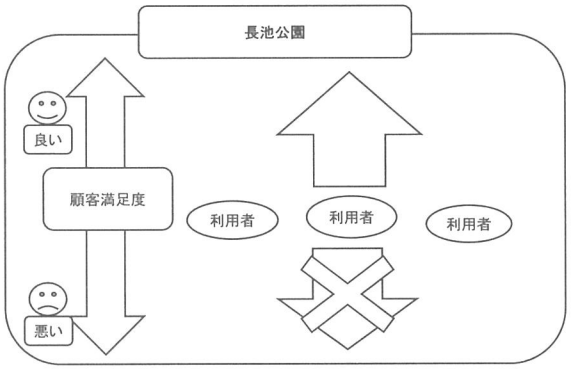
久恒ゼミ
公園プロジェクト

宮城和也
相星将駿　春風良太
松本優太　野田拓朗

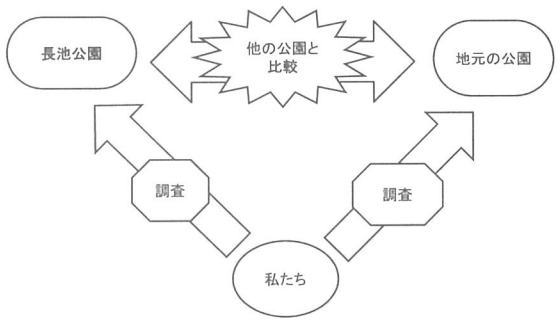
発表の流れ

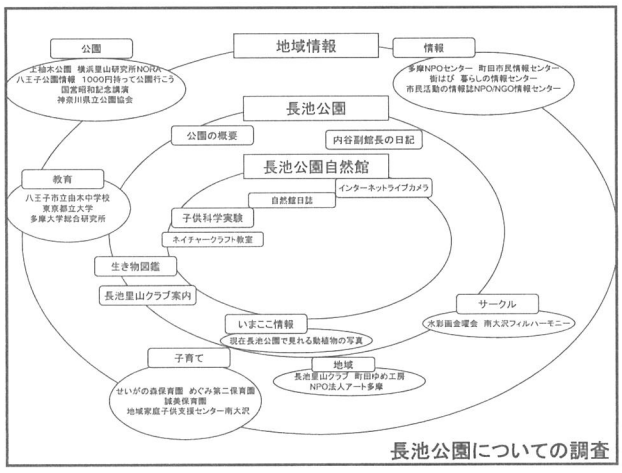
- プロジェクトの目的・調査方法 ― どのような調査をしたのか
- 長池公園の特徴 ― 長池公園はどのような公園か
- 各公園の比較 ― 他の公園との違い 長池公園との比較
- 提案 ― どのようにすればよいかの提案

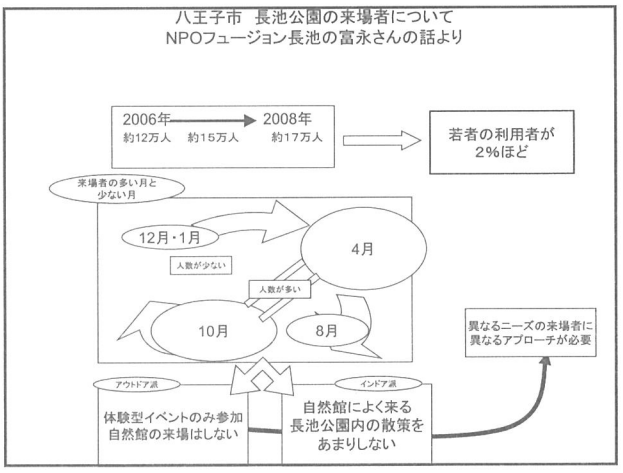
プロジェクトの目的



調査方法

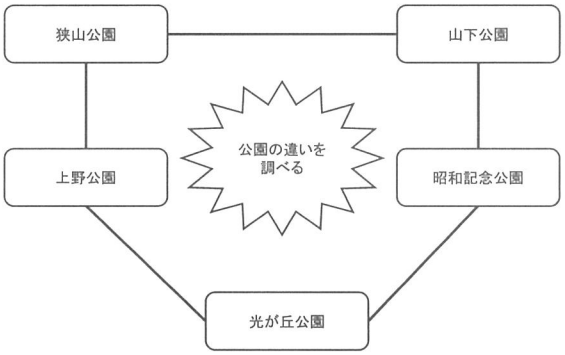




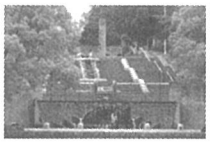


長池公園の
写真

調べた公園



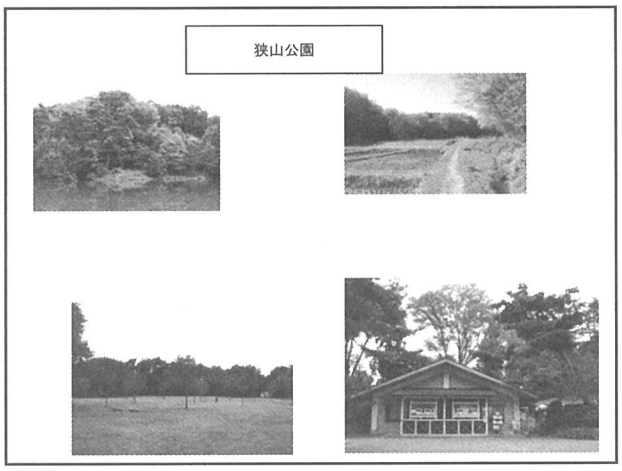
山下公園

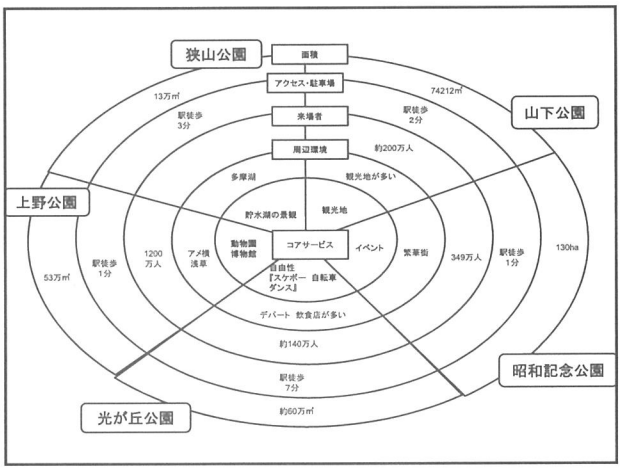


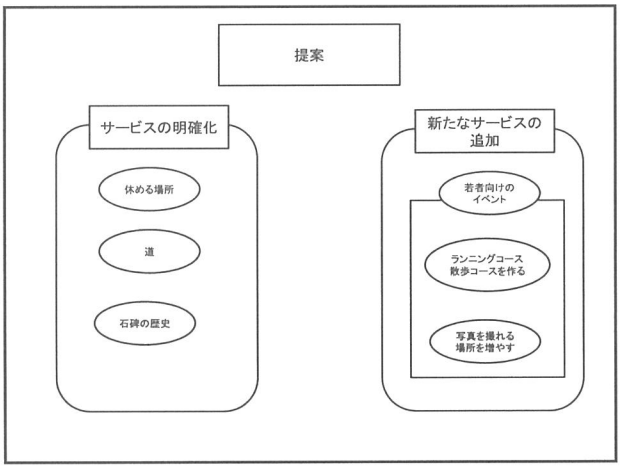
上野公園

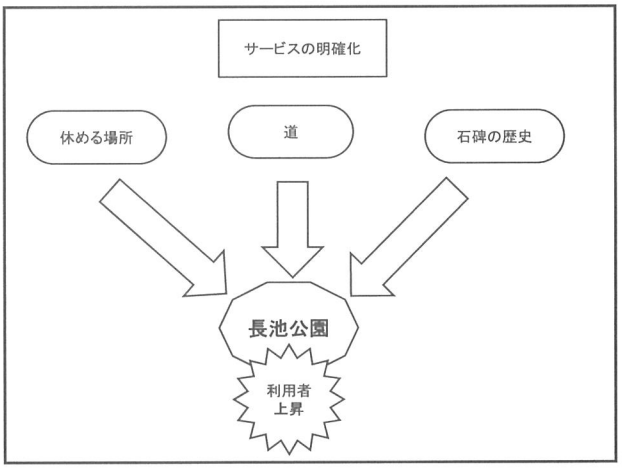
光が丘公園

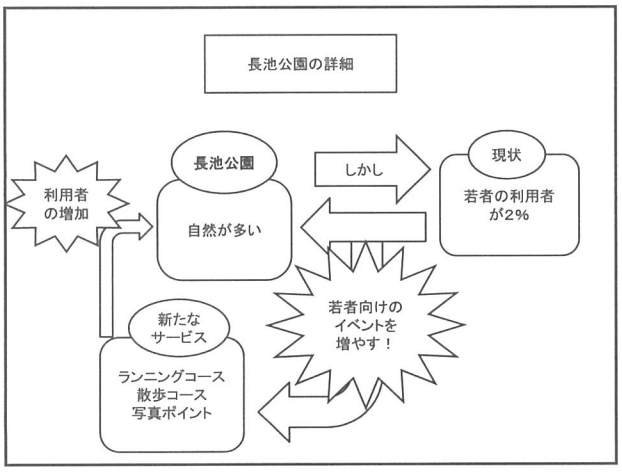
昭和記念公園

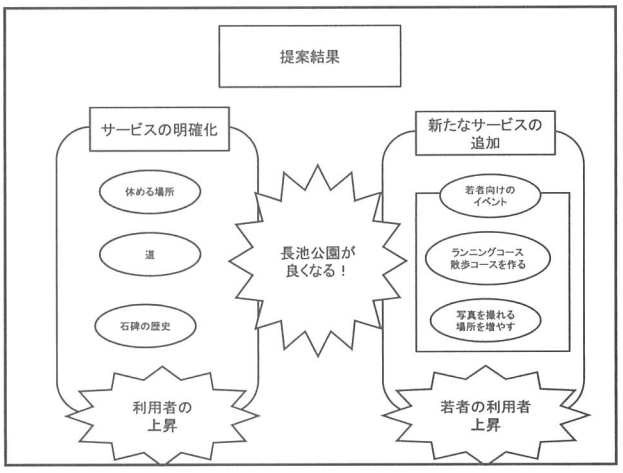

狭山公園


狭山公園
面積
アクセス・駐車場
来場者
周辺環境
13万㎡
74212㎡
駅徒歩
3分
駅徒歩
2分
約200万人
多摩湖
観光地が多い
貯水湖の景観
観光地
コアサービス
動物園
博物館
アメ横
浅草
イベント
繁華街
自由性
『スケボー 自転車
ダンス』
デパート 飲食店が多い
約140万人
駅徒歩
7分
約60万㎡
1200
万人
349万人
駅徒歩
1分
駅徒歩
1分
53万㎡
130ha
山下公園
上野公園
昭和記念公園
光が丘公園


提案
サービスの明確化
休める場所
道
石碑の歴史
新たなサービスの
追加
若者向けの
イベント
ランニングコース
散歩コースを作る
写真を撮れる
場所を増やす


サービスの明確化
休める場所
道
石碑の歴史
長池公園
利用者
上昇


長池公園の詳細
利用者
の増加
長池公園
自然が多い
しかし
現状
若者の利用者
が2%
若者向けの
イベントを
増やす！
新たな
サービス
ランニングコース
散歩コース
写真ポイント


提案結果
サービスの明確化
休める場所
道
石碑の歴史
利用者の
上昇
長池公園が
良くなる！
新たなサービスの
追加
若者向けの
イベント
ランニングコース
散歩コースを作る
写真を撮れる
場所を増やす
若者の利用者
上昇

酒井麻衣子ホームゼミ

多摩センター地区活性化研究

多摩センター地区
活性化プロジェクト

酒井麻衣子ゼミ

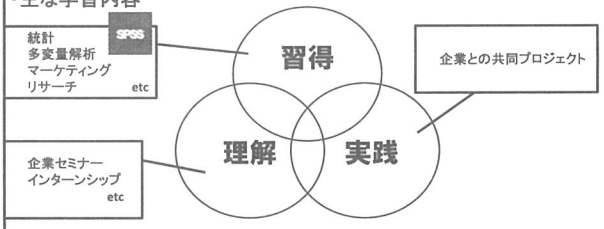
酒井麻衣子ゼミの活動内容

・特徴

「リサーチ、データマイニング、データベース・マーケティングのスキルを身につけた、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を育てる」

●実践的な教育を重視●

・主な学習内容

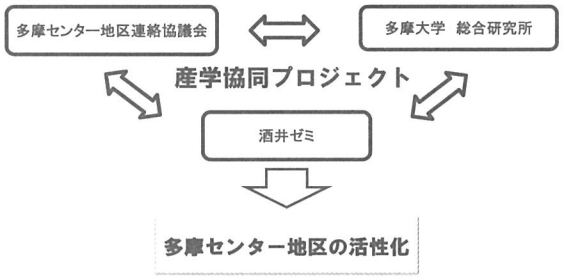


2010/2/12 2

本プロジェクトの概要

2009年春学期 演習科目

合同ゼミ「アンケート調査実践」



2010/2/12 3

プロジェクト報告の目次

- 多摩センター地区が抱える現状の課題
- 4つの研究テーマ
- 調査の実施
- 回答結果からの提案
- まとめ

2010/2/12 4

多摩センター地区が抱える
現状の課題

多摩センター概要

多摩センターとは・・・
1965年、東京圏における住宅問題、職住遠隔化等の都市問題の解決を図るため、開発が始まった業務核都市である"多摩ニュータウン"の中心エリア

・商業
三越
大塚家具
イトーヨーカドー
京王プラザホテル

・娯楽
サンリオピューロランド
ワーナーマイカルシネマズ

・文化
パルテノン多摩
多摩美術大学美術館

・企業
ベネッセコーポレーション
朝日生命

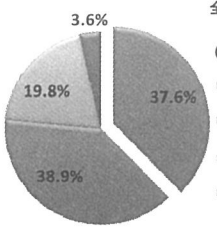
など

2010/2/12 6

例）多摩センターに対するイメージ

Q. 多摩センター地区の今後の賑わい状況について

「多摩センター周辺はもっと賑わいを生んだ方が良い」
全体の37.6%が回答



（全体＝1,704）

- もっと賑わいを生んだ方がいいと思う
- 現状でいいと思う
- 分からない
- 無回答

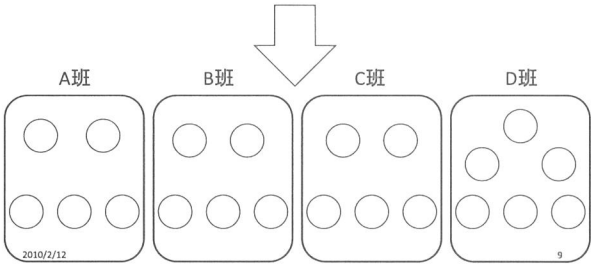
出典：平成21年 31回多摩市政世論調査結果概要
http://www.city.tama.lg.jp/dbps_data/_material_/common/simmsoudan/31yorontyousagaiyouban.pdf

2010/2/12 7

４つの研究テーマ

2・3年生合同チームによる研究

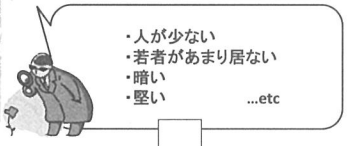
3年生　9人　　2年生　12人



2010/2/12 9

現地視察や二次データを基にした研究テーマ作り

現地視察から得られた印象



多摩センター地区を活性化させるために・・・

- テーマA：もっと広告を出そう
- テーマB：学生の活動・交流を利用
- テーマC：駅利用者を呼び込む
- テーマD：若者を対象としたイベント

2010/2/12 10

調査の概要

実施した調査の概要

多摩大学　学内

調査方法：授業時に質問紙を配布
（回答後、質問紙を回収箱に投函してもらう）

街頭調査（多摩センター駅前広場）

調査方法：質問紙を用いた対面調査
所要時間：2～5分程度

各班のテーマに応じた質問紙を
それぞれ作成（全4種）

2010/2/12 12

得られた回答の分析

基礎集計

↓

本分析

↓

提案・まとめ

回答者の属性（年齢・性別等）・所属

↓

テーマに応じた回答者の意識

↓

回答者の多摩センターに対するニーズ

↓

活性化に向けた施策提案

2010/2/12　13

回答結果からの提案

４つの施策提案

テーマA：もっと広告を出そう

多摩センターの商業施設に対する認知
各種商業施設に対する利用意識
利用意向（できたら嬉しいと思う施設）

⇩

・特定施設に関するクーポンの入ったポケットティッシュによる広告
・多摩センター共通ポイントカードの発行

テーマB：学生の活動・交流を利用

現在所属する部活動・サークル
所属してみたい活動
異なる部活動・サークルとの交流への意欲

⇩

・インターネットを利用した交流システム
・多摩センターでの親睦イベントの開催

テーマC：駅利用者を呼び込む

利用している路線と出発駅・目的駅
通勤・通学の朝に朝食を食べる頻度
食べる場合にかける時間
無線LA N機器の所持・利用意向

⇩

・通勤・通学者を対象に、低価格・気軽に立ち寄れる「おにぎり屋」
・多摩センター総無線LAN化

テーマD：若者を対象としたイベント

多摩センター地区の利用状況
ライフスタイル（情報・消費etc）
就職活動（経験・考え方・不安）・恋愛（デート・恋愛観・費用etc ）に対する意識

⇩

・中小・中堅企業を中心とした企業説明会
・多摩センターでの「大人の雰囲気の夏祭り」の開催

10/2/12　15

まとめ

プロジェクトで得られたもの

・地域をよく知る共同研究者の方からの貴重なアドバイス

・街頭アンケートという経験

見知らぬ人に声をかけ、地域の「生の声」を自分たちで得るということの重要性・大変さ、ゼミ生同士のチームワークの大切さを学んだ

・今後に向けて

得られたデータの分析結果の解釈に、もっと地域の現場の知識を反映させることを意識したい。

2010/2/12　17

ご清聴
ありがとうございました。

2010/2/12　18

久垣啓一ホームゼミ

多摩の手土産づくり支援

多摩手土産プロジェクト
～具体案と今後の狙い～

多摩大学久恒ゼミ
多摩焼きプロジェクトチーム

★始まり

- 多摩地区（多摩市）に代表的な「おみやげ」（特産品）がない（あるが限られている）

↓

- 多摩焼を広める（多摩の土で作っている）

☆全体像

- お土産（特産物）を作って広げる（目的）

↓

- サイトを作る（手段）

↓

- 3月31日までの完成を目指す

↓

- ホームページの活性化

～これまでの活動～

- 話し合い（キックオフ）

↓

- 実際に陶芸の体験

↓

- 合宿（全員でミーティング）

↓

- イベント手伝い

1. サイトの設立目的と狙い
2. サイト名の決定
3. サイトのコンセプト
4. サイトのコンテンツ内容
5. 今後

サイト設立の目的と狙い

- 多摩の手土産を広めるためにまず手土産の総合サイトを作ることにした。
- そしてそのサイトを利用し、多摩の手土産を広く宣伝し、多摩に住む人が特産品を手土産として、また多摩に訪れた人の土産として、多摩の物を利用してもらおうという狙い。

↓

- 将来的には通販システムを組み込んで、通販も出来るようにする予定。
- また、このサイトを通じて、“多摩の活性化”についても視野。

サイト名の決定

○ サイト利用時に、ここがどんなサイトかを利用者がひと目でわかるようなサイト名が重要であると思われる。
そこでサイト名として、

「多摩の玉手箱」

おみやげのサイトであること、そして多摩に関連していることが伝わりやすいと思われる。

サイトのコンセプト

○ このサイトでは、まず第一に人の目を引き付けるような内容を。
ただ見て終わるだけではなく、楽しんでもらい、多摩の手土産について知っていってもらう。また実際に体験したような気になるなど、頭に残りやすいような工夫を施していく。
また、**"多摩の活性化"**も最終的な目標の1つのため、ただの手土産総合サイトにするのではなく、活性化を見据えた作りにしていく。

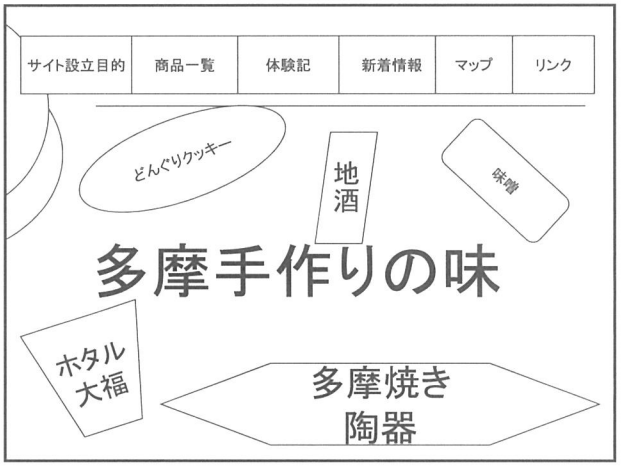
具体的には、サイトにおきましては、写真の掲載、動画配信、多摩の名所を巡るモデルコースを作り、紹介をする等、観光についての要素を入れる予定。

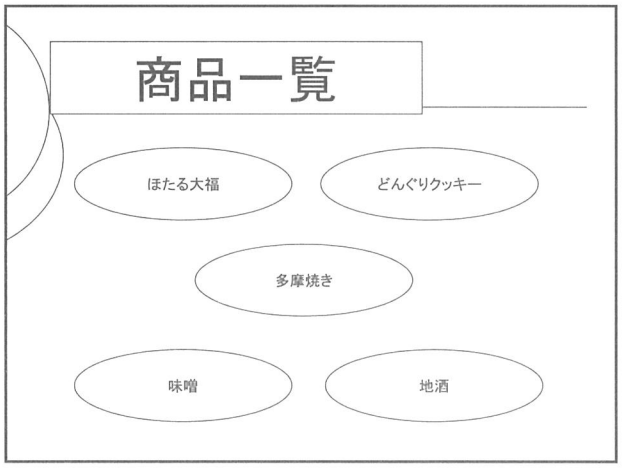
コンテンツ内容

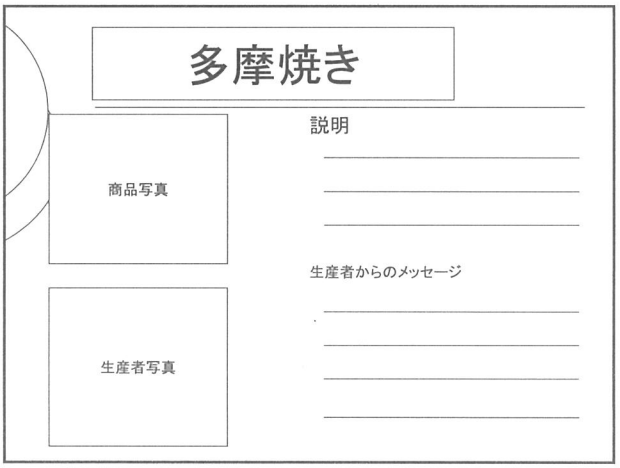
○ 実際に商品を買う際の後押しになる重要な要素。

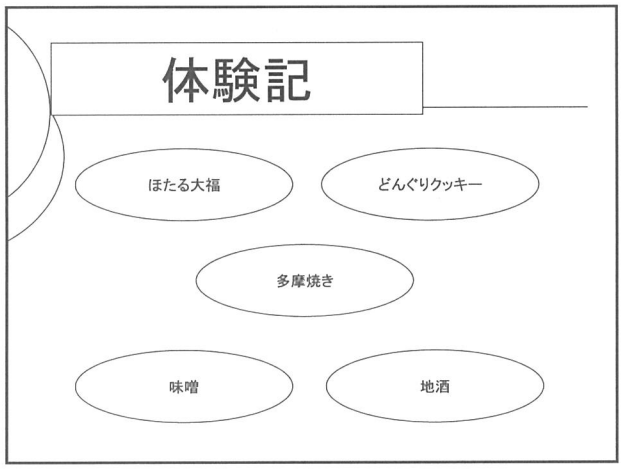
～具体的なコンテンツ内容～
①商品紹介・・・・画像・動画を使用。生産者へのインタビュー等も掲載予定。
②新着情報・・・・サイトの更新情報の掲載（新商品の追加、コンテンツの追加、サイトの模様替え等）
③体験記・・・・実際に試用してのレビューを掲載。（私たち学生、近隣のお店で試用してもらった感想、実際の利用者等）
④観光の要素・・・・焼き物体験教室への参加募集、モデルコースの紹介等の観光についての情報を掲載予定。
⑤リンク・・・・多摩の手土産に関連するサイトへのリンク等。

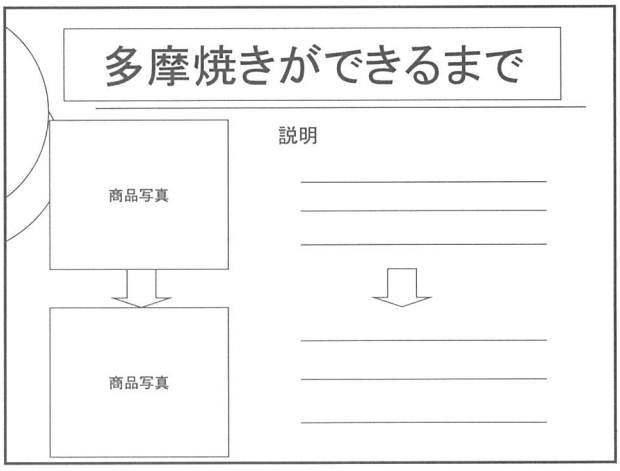
以上を予定。

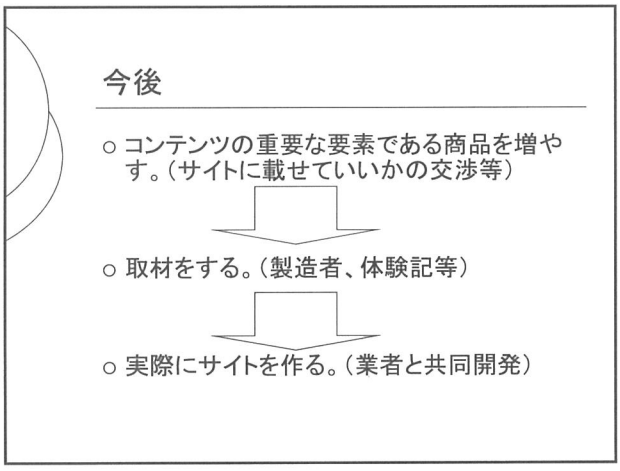







体験記
ほたる大福
どんぐりクッキー
多摩焼き
味噌
地酒


多摩焼きができるまで
説明
商品写真
商品写真


今後
○ コンテンツの重要な要素である商品を増やす。（サイトに載せていいかの交渉等）
○ 取材をする。（製造者、体験記等）
○ 実際にサイトを作る。（業者と共同開発）

中庭光彦EXゼミ

「多摩市のシティセールス」
多摩観光ガイドブック作成

私たちが考える多摩市のシティセールスの方向性

２０１０年２月１２日

中庭ゼミ（有吉創平、嶋田弘樹、増田淳、菊池麻衣）

授業を受ける前の多摩市の印象

* 緑が多い街
* 交通が不便な田舎
* 多摩大が山の上にあるので不便に感じる
* 耳すまスポットがある
* 都心と比べて気温が低く感じる
* 公園が多い
* 地図で見ると小さい印象
* 団地が多い
* 多摩市＝多摩センターのイメージが強い
* まだ知らない場所がたくさんあるように感じる
* モノレールがある
* 店があまりなさそう

活動後に感じた魅力的な点

●商店街●
・昔は、子供も多くにぎやかだったこと
・七夕祭り、フリーマーケットなどの行事がある

●多摩センター●
・イベントの時には盛り上がっていて楽しそうな感じがすること
・色々な施設があり、遊ぶ、買い物などの楽しみが多くある
・歩行者天国があること

●聖蹟桜ヶ丘（いろは坂～ロータリー）●
・全国からファンが訪れる耳すまスポットが在る
・映画の雰囲気を味わうことができる
・耳すまノートにメッセージが書ける（ノア洋菓子店）

●サンリオピューロランド●
・全国に多摩と大分にのみ存在するサンリオテーマパーク
・小さい子供も楽しめる施設
・キャラクターが手紙を一人一人に手書きで返してくれる

●聖蹟記念館●
・紅葉がきれい
・ゆったりとして静かな雰囲気
・周りに豊かな自然があり、多摩に関わる歴史も学べる

活動後に感じた魅力的ではない点

・場所によっては買い物をするのが遠くのスーパーまで行く必要がありそう
・市内のバスが本数が少なく不便なところもありそう
・歩行に障がいのある方には坂道が多くつらそう
・歳を取るにつれて、エレベーターのない団地はつらそう
・学生にとって近場に団体で夜に遊べる場所が少ない
・虫がたくさんいること
・小さいお店が少なく感じた
・お隣さん同士の付き合いが足りないのではないか（！保留）キーワード自治会・町内会・サークル・お祭り

サンリオピューロランド

「人をつなぐ夢の世界」

（理由）
・人のつながりを促進する施設
・安心できリラックスできるテーマパーク

聖蹟記念館

「地元の歴史を知ろう」（ニュータウンに住んでいる方へ）

理由
・記念館では多摩の歴史に関する展示物がある
・地元のことを知ることで、多摩への誇りや愛着を持てる

諏訪名店街

「名店街を交流の場にしよう」

理由

・まつりや催し物をだせば子供～大人まで
集まって交流することができる

聖蹟桜ヶ丘（いろは坂～ロータリー）

「耳すまの大地」

理由

・地球屋ロータリーをはじめ、金比羅宮など
映画のモデルとなった場所がある

・訪れた人が書き込んでいった耳すまノートがある
（ノア洋菓子店）

多摩センター

「みんなが安心して楽しめる多摩センター」

理由

・多様なイベントが開催されていて賑やか

・買い物でき、色々な娯楽を楽しめる施設が揃っている

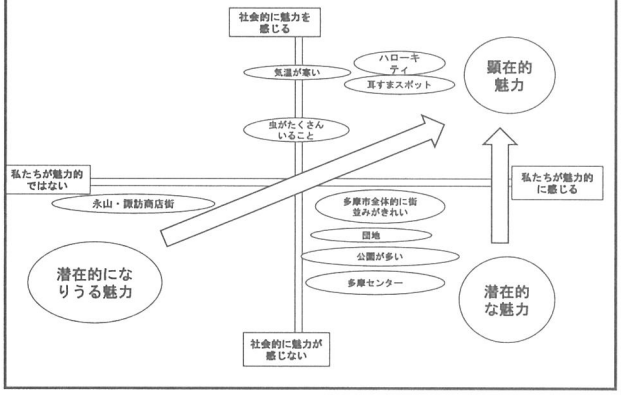
多摩市全体

「夢を考える場所にしよう」

理由

・多摩市に訪れて何かの魅力を感じて夢を考えるきっかけ
としてほしい

多摩市の魅力を社会的視点から考察すると



来年への改善点

× フィールドワークを早い時期に行うこと

× まず多摩市全体のことをもっと知る必要がある

インターゼミ
「わっしょい！ TAMA チーム」

多摩ニュータウン活性化研究

TAMA UNIVERSITY 多摩大学

2010/2/12 わっしょい!!TAMA最終発表

多摩ニュータウン再生の研究

－ Community in Tama New Town －

鮎川 礼 ・
岡 俊輔 ・
菊永 泰正

1

はじめに

1. 高度成長期時代に時代の要請により誕生した「ニュータウン」。しかし、時の経過と共に様々な問題が浮き彫りとなっており、今曲がり角を迎えている。
2. 画一的な計画都市ゆえの急速な高齢化、職住分離設計ゆえの昼夜人口のアンバランスと住民ニーズを満たすコミュニティー維持の困難さが見られる中、学生の観点からどのような活性化策が検討できるかの検討を行った。
3. 課題の解決に向けて、行政や様々なNPOが取り組みを行っており、その実態から調査を始め、経済面の基盤もさることながら、人的な貢献の確保が困難となっている状況が判明した。
4. 一方、若者への住環境・地域活動への意識に関し、量的調査を行った結果、地域活動への参加に関し、情報やキッカケがつかみ難い状況である事も明らかとなった。
5. 調査結果から、若者と地域を結びつける効果的な施策を実施できないかを検討し、その結果としての提言を最後に報告させて頂く。

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 2

多摩ニュータウンとは

出典：UR都市機構「TAMA NEW TOWN SINCE 1965」

多摩NTのあゆみ

✓多摩ニュータウンは、稲城・多摩・八王子・町田の4誌にまたがる、面積約2,884ha、計画人口34万人の街である。

✓スタート当時、高度経済成長による、東京都市圏への人口・産業の一極集中と住宅難、郊外のスプロール化が問題となっていた。

✓「多摩ニュータウン」事業はこれらの問題に対し、多摩丘陵に計画的住宅市街地を建設し、良質な住宅を大量に供給する事を目的として、昭和40年に都市計画が決定され、40年以上の開発となっている。

✓現在では、国内最大級のニュータウンとして、世帯数約8万戸、人口約20万人の住む都市として成長している。

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 3

なぜニュータウンが造られたのか？

戦後の住居不足を補うため

資金がある人には持ち家購入を勧め、乏しい人には公営住宅を提供

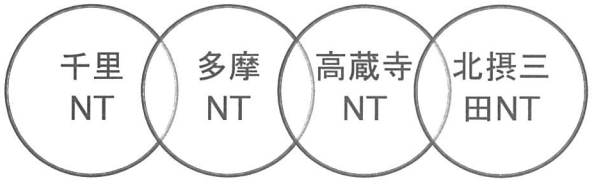
中間層（サラリーマン）には住宅公団の住宅を

戦災による住宅不足＋高度経済成長で住宅不足

労働者（サラリーマン）が大都市圏に働きに出るようになりその近辺で住居の需要があがった。しかし大都市圏は次第に地価が上がり始め、一般家庭では購入できなくなった。そしてそのジレンマを解決するためにニュータウン開発がスタートした。

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 4

どのようなニュータウンが造られたのか



TAMA UNIVERSITY 多摩大学 5

多摩ニュータウンの抱える課題

ライフスタイルや価値観に合った住宅の提供

- 2DK,3DKではもう狭い！　古くて陳腐な住宅ばかり！
- お年寄りに優しい住宅が不足

少子化への対応

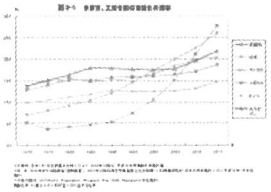
- 子育て支援施設の不足
- 産婦人科・小児科不足

高齢化への対応

- 老人ホームやリハビリ施設の不足
- 地域コミュニティの活力の低下

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 6

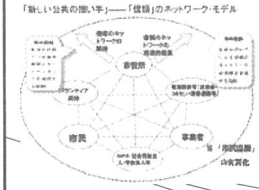
調査の方向性



NTの人口問題の現状
世界的にも急速な高齢化の進展
[生産人口の減少]
→ 子育てが終わり、都心への回帰が原因
[高齢者の増加] → 団塊の世代の集中が原因

地域コミュニティの活性化で問題解決できないだろうか？

「新しい公共の担い手」――「信頼」のネットワーク・モデル



研究計画における方向性：
1.地域住民とNPOの関わりは？
2.多摩のNPOは成功しているのか？
3.NPOの抱えている問題とその解決策は？

多摩市民活動の実態 –市民活動情報センターヒアリング–

6/5 多摩市：Community施策に力点→市民活動は活発

NT地域と既存地域に差(NT地域はNPO、既存地域は自治体中心)

知縁　地縁

- 行政の取組み：情報発信(地域に入っていくきっかけ作り)
  財政支援(補助金活用・業務委託等)
- 多摩地域のNPO (78団体) ・・・・悩みを抱えている所も多い
  - 資金問題：会費・寄付・補助金、事業収入が三本柱 ―― 集める努力をしている？
  - 人材問題：目的を収束させる事(思いの共有)が難しい ―― 団塊世代に期待も動きは鈍い
  - 時間問題：キーパーソンに集中(振返る時間もないほど大変)

<意識のミスマッチ>
➢ ボランティアは手弁当が当たり前 ←→ いい事をしているのだからサポートしてくれて当たり前

- 参加・連携が鍵：PushからPullへ【Bottom Up型の地域作り】
  - NPO間連携：ネットワーク多摩(産官学連携)、ニュウタウン人・緑卓会議
  - 大学連携：7-8の大学と連携 (大学側の地域貢献の動きと歩調を合せる)
  - 企業連携：Benesse等と業務委託連携実施 ―― まだ動きとしては広がりに欠ける

<Public Relations> どのように社会の中で認知してもらうか

地域に対する若者ニーズの調査

地域活性化の為、若者のニーズや意識調査により地域活動へのキッカケを提案できないか？

多摩大学学生180名へ「まちと地域に関する意識調査」のアンケート実施。
(酒井先生・松本先生講義受講生)

学生アンケート結果分析

- 地域活動参加のきっかけと不参加の理由
  - 参加のきっかけ：友人や親に誘われ/薦められが多い。自主的な参加もあるが、数は少ない。
  - 不参加の理由：情報が少なく、何をやっているかわからない。身内だけの集まりのイメージが強く、一人で参加するのが躊躇われる。といった参加へのハードルの高さが伺われる。

地域活動参加の理由
友達に誘われたから
興味があってやってみたいと思ったから
学校のイベントや友人の勧め
学業の一環として
友人や親に誘われて
親に誘われて
学校のゼミ/学業の一環として
高校の時部活動で
地域の人々と触れ合いたいと思った
ボーイスカウトに所属していたから
留学生と仲良かったので
一度やってみたかったから
小さい頃からの習慣なのできっかけも何も分からない。
興味！！入ったら楽しかった。
友人が団体に所属していて誘われた

地域活動不参加の理由
参加する機会がなかった (日時がわからない・予定が合わないなど)
情報が少ない
参加するにもきっかけが必要な事もあり一人で行くのは少し恥ずかしい面があるから
活動の存在についてあまり知らない
入りにくいイメージがある（身内だけの集まりに感じる）
時間がない・何をしているのかわからない
具体的に何をしているのか知らない 周りに一緒にやろうという人がいない
どのような行事やボランティアがあるか知らない
一緒に参加する身近で親しい人がいなかった
参加の仕方がわからない
参加しやすいうまいキッカケがない
どんな事をしているのかよくわからないから
何があるかわからないから
一人で参加する勇気がなかったから

若者の地域活動参加を促すには？

若者の地域活動への参加は、情報の少なさと、人的繋がりを含むきっかけが無い事がハードルの要因に

↓

若者が地域活動の情報に触れ、参加へのハードルを引き下げる事はできないだろうか?

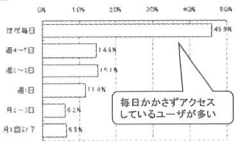
↓

若者が日常の情報収集ツールとして活用しているSNSを活用して、若者の地域参加のハードルを下げられないか?

日本におけるSNSの状況

- SNS (Social Networking Service)
  - インターネットを活用したコミュニケーションサイト。世界的にはFacebook, MySpaceが有名。日本ではMixiが中心的存在。紹介制による友人同士のコミュニティーが基本だが、参加者が多くなり、オープンなコミュニティーに近づいている。
  - 若者を中心に日常のコミュニケーションツール化しており、毎日アクセスし、日記を公開したり、コミュニティーに参加、友人を広げる等の目的で利用されている。

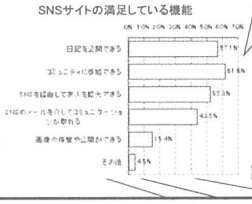
ユーザのSNSの利用頻度



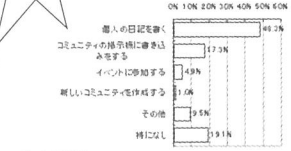
毎日かかさずアクセスしているユーザが多い

日記を書くとコミュニティに参加するのが利用目的

SNSサイトの満足している機能



SNSコミュニティを利用する目的

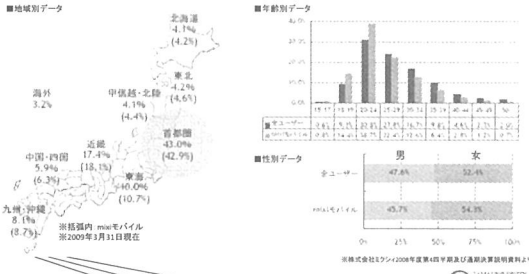


gooリサーチ (2007/04)
http://research.goo.ne.jp/database/data/000461/

mixi のユーザ、利用状況

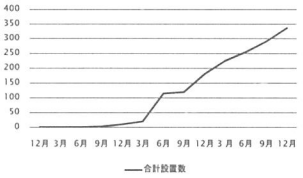
mixi

- ユーザー数1,683万人、月間PV153.6億PV(Mobile 111.0億PV,PC 42.5億PV)
- 日本人口に占めるmixiユーザーの割合は20代全体で約57%、20代前半で約66%



地域SNSの取り組み

地域SNSの合計設置数(2004年12月～2008年2月)

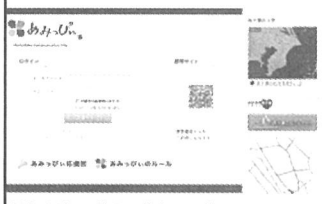


全国で336カ所！！
(2008年2月)

オフライン活動の活性化
×
既存の人的ネットワークの橋渡し
×
地域メディア化

SNSを活用した活性化の事例

あみっぴぃ http://amippy.jp/



対象地域:千葉県千葉市西千葉地区
運営者:特定非営利活動法人
ユーザー数:約1,200人
一般公開:2006年2月

- ■商店主、地域住民、学生などによる顔が見える豊かな人間関係
- ■パソコン講習時などの、千葉大生と地元住人との接点としての機能
- ■財団法人千葉県産業振興センターの観光事業プロジェクトに参加
- ■オリジナルTシャツ「あみってぃ」制作
- ■音楽イベントなどのさまざまなオフイベント
- ■地域通貨「ピーナッツ」

SNSのポテンシャルを地域に活かすには?

これまでの地域SNSはClosedであるゆえの参加しにくさが広がりを阻害する要因に

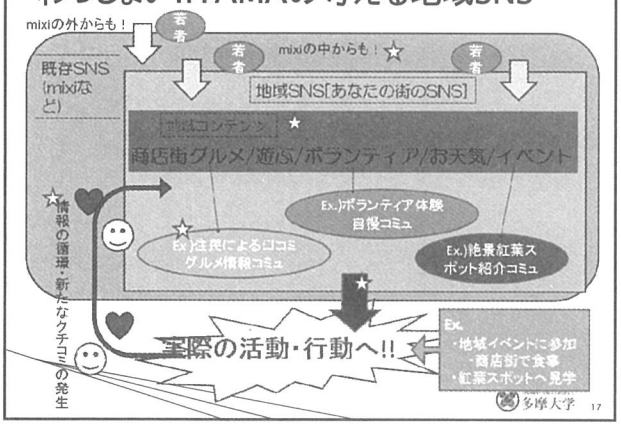
↓

若者を呼び込むのではなく、若者がいる場所へ出て行く発想が必要ではないか?

↓

若者利用の多いmixiへ地域SNSを設置し、地域情報の発信により若者参加のハードルを下げられるのでは?

わっしょい!!TAMAの考える地域SNS

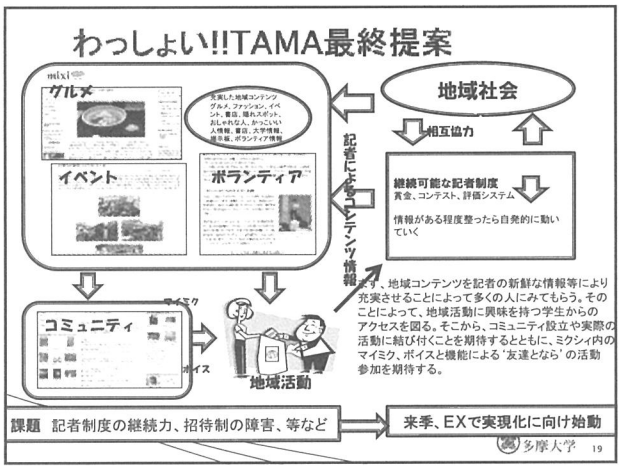


グループインタビューの実施

- ■地域に関してどんなことに興味があるのか？
  - グルメ情報、ファッション情報、書店、近隣の大学情報、イベントなど様々な意見があったが、地域活動に関する情報はかなり少数であった。また、地域の施設等に対する興味というよりも、じぶんも含めてそこにどのような人がいるかに対する興味関心が大きかった。
- ■どうしたら各コンテンツ特定コミュニティに入ってくれるか？
  - そのコンテンツに関する興味があるか、盛り上がりがあるか、入りやすいか、そしてどんな人がいるかが入る為に必要な要因であった。
- ■どうしたら実際の行動・実行に移してもらえるか？
  - 少数の、地域活動に対する興味がある人は情報があれば行くとの回答。一方、興味のない人は、友達に誘われれば行く可能性がある、おもしろそうな人がいれば行くかもしれないと回答。

↓

人を軸にした、充実した継続可能な地域コンテンツ。友人となら、を実現する仕組み。



まとめ

1. 「ニュータウン」の歴史的背景から、現在の課題まで多摩ニュータウンを軸に調査を行った。その中で浮き彫りとなった「地域活動への人的貢献確保の困難さ」に着目し、学生の観点からどのような活性化策が検討できるかの検討を行った。
2. 学生の住環境や地域活動に対する量的アンケート調査から、地域活動に対する参加の障害として、情報や人的繋がりの不足がある事が判明した。これまでの地域活動の情報発信は、自らの発信しやすいやり方で行う「Product Out」型の発信が多く、対象者とのコンタクトがある所で発信する「Market In」型の発想に乏しい所が見受けられた。
3. わっしょい!!TAMAでは、多くの若者が利用しているSNSであるmixiに着目し、地域情報発信のコミュニティーを設置する事により、若者の地域活動への関心を高める事ができないかを検討し、グループインタビューを実施した。
4. 結果として、地域情報発信の代理店機能としての有効性が確認できた為、学生記者によるタウン誌的な地域情報発信のSNSコミュニティーの提案を行った。
5. 来期は具体的なプロジェクトゼミとして、具現化に向けた検討を継続する。

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 20

参考文献

- ニュータウン再生を支える地域コミュニティ創生に関する調査研究
  (財)関西情報・産業活性化センター NIRA 2007/5/1
- 地域を支え活性化するコミュニティ・ビジネスの課題と新たな方向性
  (財)神戸都市問題研究所 NIRA 2002/9/1
- ニュータウン再生～引き潮時代のタウンマネージメント～
  秋元 孝夫(多摩NTまちづくり専門家会議) 2007/6/27
- ニュータウン人・縁卓会議報告書
  NPOフュージョン 2006/10/26
- 「明日のニュータウン」財団法人東北産業活性化センター編 日本地域社会研究所 2008年 p.37,38
- 「ニュータウン再生」 山本茂 学芸出版社 2009年
- 「ニュータウンの未来」 秋元孝夫

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 21

FIN

TAMA UNIVERSITY 多摩大学 22

インターゼミ
「東鳴子温泉活性化チーム」

東鳴子温泉活性化研究

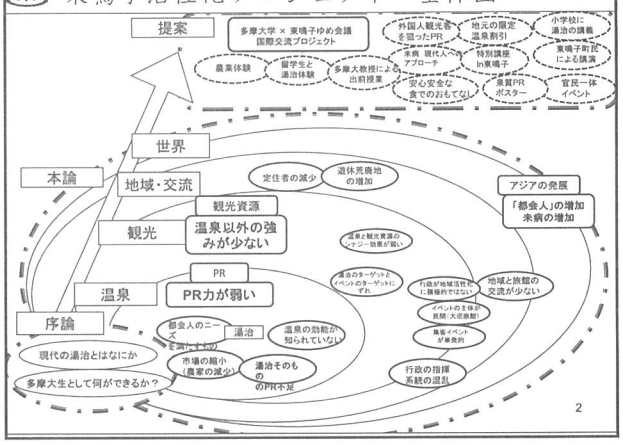
多摩大学　インターゼミ（社会工学研究会）

東鳴子温泉活性化プロジェクト
―都会の若者からの提言―

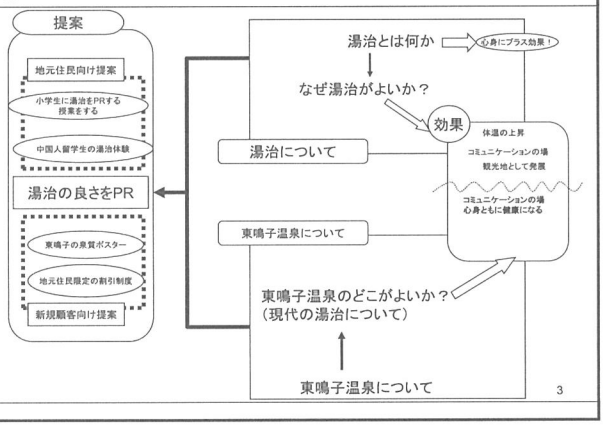
～2010年2月12日発表～

阿部剛平　宮城和也　山本信子　石川健太

東鳴子活性化プロジェクト　全体図



東鳴子温泉　「温泉」の全体像



湯治とは

湯治は体にとってプラス

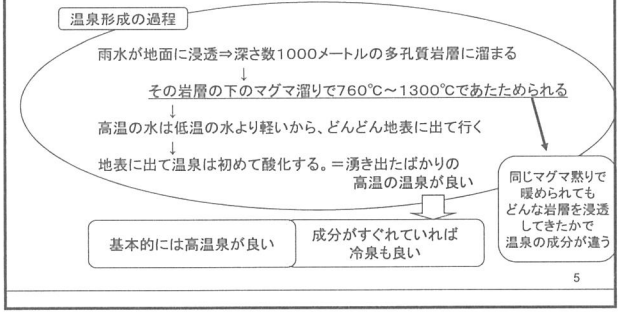
湯治は予防医学である　by温泉博士 松田忠徳

湯治は精神面（心）にもプラス

湯治は現代に適したものであるといえる

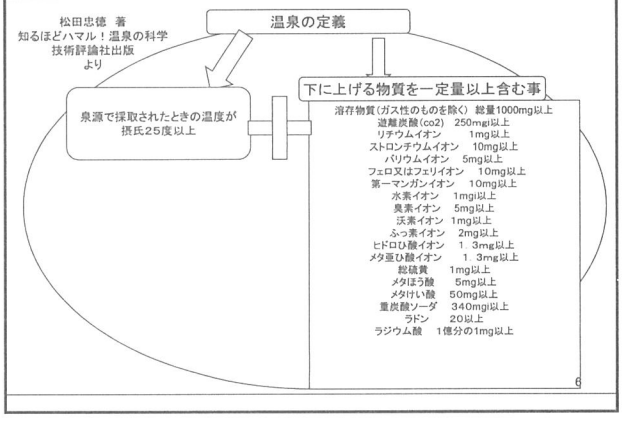
4

知るほどハマル！温泉の科学
松田忠徳＝著を読んで

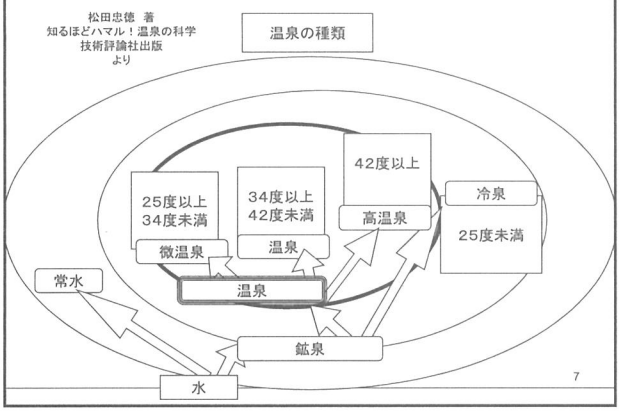


5

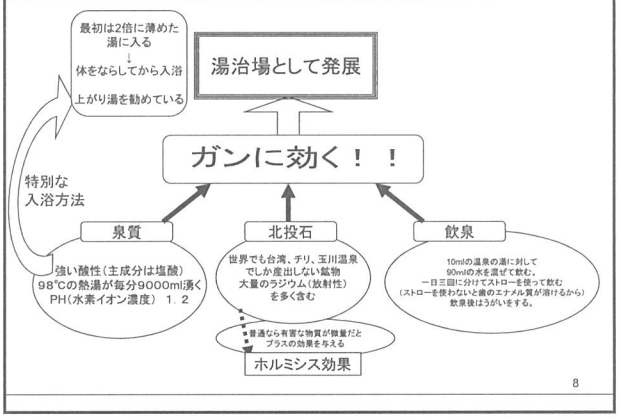
温泉の定義



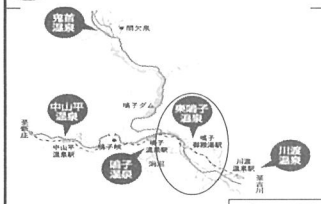
温泉の種類



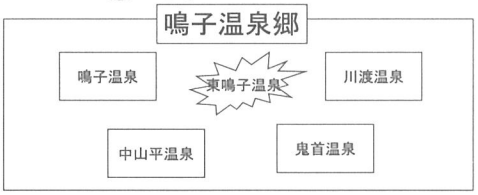
秋田県・玉川温泉に入るとこんな効果がある



東鳴子温泉とは



・鳴子温泉郷のうちのひとつ
・鳴子温泉郷には日本にある11種類の温泉のうち9種類がある



鳴子温泉郷にある泉質

単純温泉
効能：神経痛、リウマチ
骨折、外傷
宿：姥の湯旅館

重炭酸泉（炭酸水素塩泉）
効能：けいれん、炎症、アレルギー性疾患、慢性疾患、じんましん
宿：鳴子観光ホテル、姥の湯旅館、東川原湯旅館

重曹泉
効能：皮膚病、火傷、創傷
宿：姥の湯旅館、西多賀旅館、ホテル滝嶋、鳴子パールホテル、ホテル亀谷、鳴子旅館、旅館弁天閣、河畔の宿紫電峡、旅館すがわら

食塩泉（塩化物泉）
効能：慢性関節ウマチ、腰痛、神経痛
宿：吟の庄、ねりまこの宿ますや、鳴子ホテル、登良家旅館、姥の湯旅館、大正館、ホテル扇屋、ファミリーじすい岡崎荘、ホテル滝嶋、鳴子パールホテル、ホテル亀谷、、旅館すがわら

硫酸塩泉
効能：高血圧庄
宿：吟の庄、ゆさや旅館、ねりまこの宿ますや、鳴子観光ホテル、登良家旅館、姥の湯旅館、東河原湯旅館、大正館、ファミリーじすい岡崎荘、西多賀旅館、東多賀の湯、ホテル滝嶋、滝の湯、

明ばん泉
効能：慢性皮膚疾患
宿：滝の湯、

緑ばん泉・炭酸塩線
効能：慢性リウマチ、湿疹
宿：登良家旅館、姥の湯旅館、大正館、ファミリーじすい岡崎荘、西多賀旅館、東多賀の湯、ホテル滝嶋、滝の湯、

硫黄泉・硫化水素泉（硫黄泉）
効能：慢性リウマチ、気管支炎
宿：ゆさや旅館、ねりまこの宿ますや、鳴子観光ホテル、登良家旅館、姥の湯旅館、大正館、ファミリーじすい岡崎荘、西多賀旅館、東多賀の湯、ホテル滝嶋、滝の湯、

酸性泉
効能：慢性皮膚病
宿：吟の庄、滝の湯、

10

東鳴子温泉のいいところ

優れている点①

・日本にある11種類のうち5種類の温泉に入ることができる

⇩

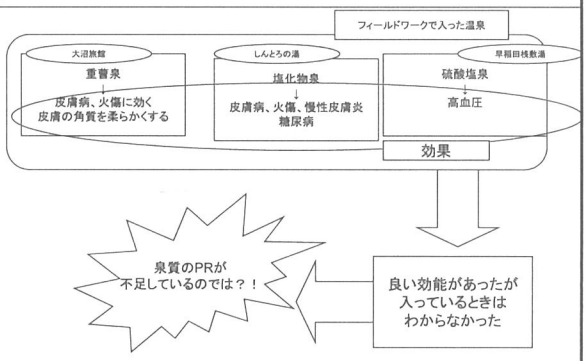
・鳴子温泉、川渡温泉、中山平温泉、鬼首温泉に足を伸ばせば11種類のうちの9種類の温泉に入ることができる

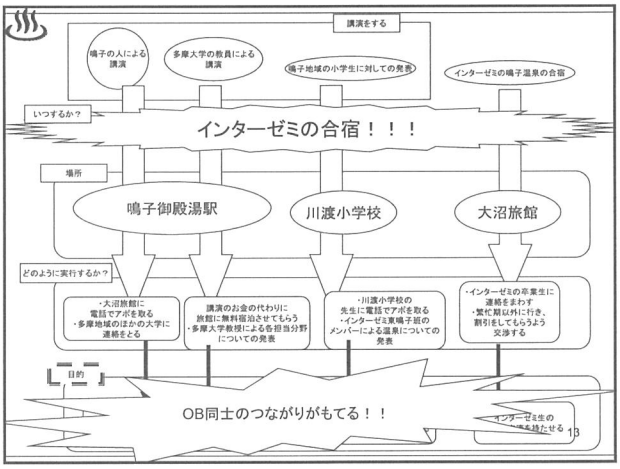
優れている点②

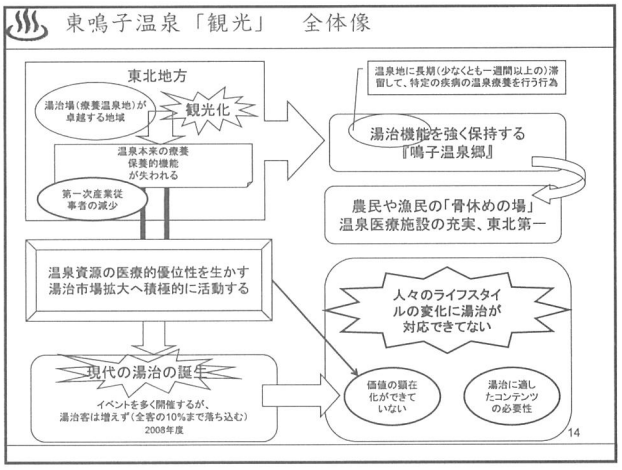
・現代の湯治（プチ湯治）体験ができる

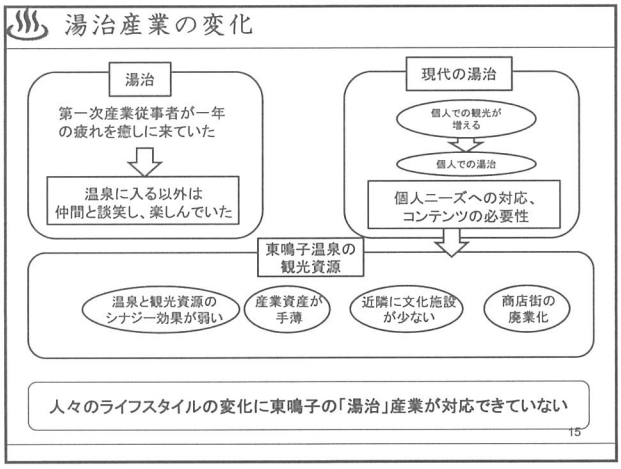
11

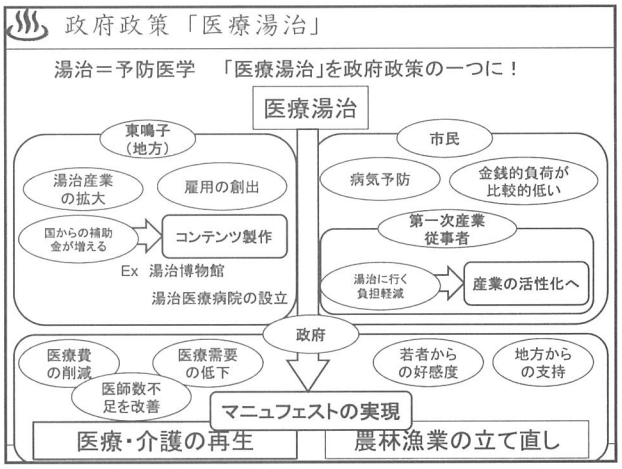
東鳴子温泉の課題

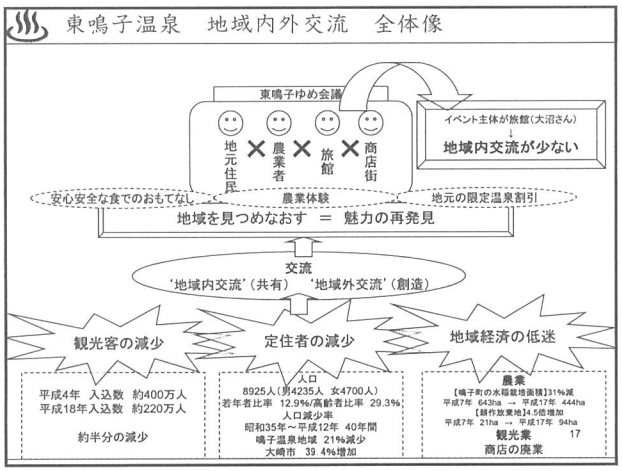


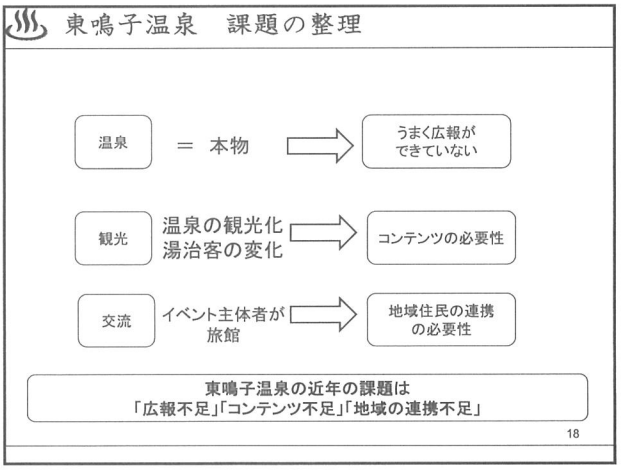

講演をする
鳴子の人による講演
多摩大学の教員による講演
鳴子地域の小学生に対しての発表
インターゼミの鳴子温泉の合宿
いつするか？
インターゼミの合宿！！！
場所
鳴子御殿湯駅
川渡小学校
大沼旅館
どのように実行するか？
・大沼旅館に電話でアポを取る
・多摩地域の近かの大学に連絡をとる
講演のお金の代わりに旅館に無料宿泊させてもらう
・多摩大学教授による各担当分野についての発表
・川渡小学校の先生に電話でアポを取る
・インターゼミ東鳴子班のメンバーによる温泉についての発表
・インターゼミの卒業生に連絡をまわす
・繁忙期以外に行き、割引をしてもらうよう交渉する
目的
OB同士のつながりがもてる！！
13


東鳴子温泉「観光」　全体像
東北地方
湯治場（療養温泉地）が卓越する地域
観光化
温泉本来の療養保養的機能が失われる
第一次産業従事者の減少
温泉地に長期（少なくとも一週間以上の）滞留して、特定の疾病の温泉療養を行う行為
湯治機能を強く保持する『鳴子温泉郷』
農民や漁民の「骨休めの場」温泉医療施設の充実、東北第一
温泉資源の医療的優位性を生かす湯治市場拡大へ積極的に活動する
人々のライフスタイルの変化に湯治が対応できてない
現代の湯治の誕生
イベントを多く開催するが、湯治客は増えず（全客の10%まで落ち込む）2008年度
価値の顕在化ができていない
湯治に適したコンテンツの必要性
14

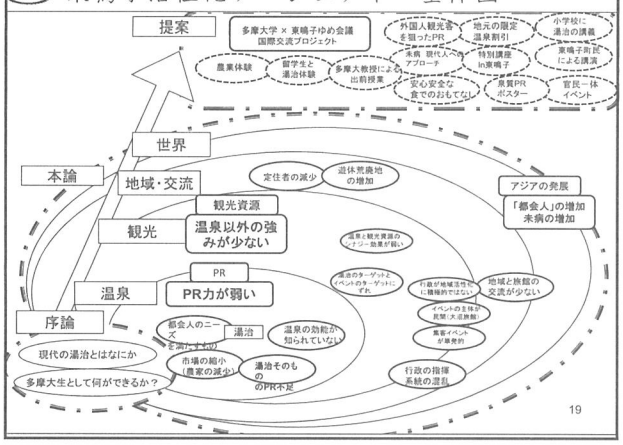

湯治産業の変化
湯治
第一次産業従事者が一年の疲れを癒しに来ていた
温泉に入る以外は仲間と談笑し、楽しんでいた
現代の湯治
個人での観光が増える
個人での湯治
個人ニーズへの対応、コンテンツの必要性
東鳴子温泉の観光資源
温泉と観光資源のシナジー効果が弱い
産業資産が手薄
近隣に文化施設が少ない
商店街の廃業化
人々のライフスタイルの変化に東鳴子の「湯治」産業が対応できていない
15


政府政策「医療湯治」
湯治＝予防医学　「医療湯治」を政府政策の一つに！
医療湯治
東鳴子（地方）
湯治産業の拡大
雇用の創出
国からの補助金が増える
コンテンツ製作
Ex　湯治博物館
湯治医療病院の設立
市民
病気予防
金銭的負荷が比較的低い
第一次産業従事者
湯治に行く負担軽減
産業の活性化へ
政府
医療費の削減
医療需要の低下
医師数不足を改善
若者からの好感度
地方からの支持
マニュフェストの実現
医療・介護の再生
農林漁業の立て直し


東鳴子温泉　地域内外交流　全体像
東鳴子ゆめ会議
地元住民
農業者
旅館
商店街
イベント主体が旅館（大沼さん）
地域内交流が少ない
安心安全な食でのおもてなし
農業体験
地元の限定温泉割引
地域を見つめなおす　＝　魅力の再発見
交流
'地域内交流'（共有）　'地域外交流'（創造）
観光客の減少
定住者の減少
地域経済の低迷
平成4年　入込数　約400万人
平成18年入込数　約220万人
約半分の減少
人口
8925人（男4235人　女4700人）
若年者比率　12.9%/高齢者比率　29.3%
人口減少率
昭和35年～平成12年　40年間
鳴子温泉地域　21%減少
大崎市　39.4%増加
農業
【鳴子町の水稲栽培面積】31%減
平成7年　643ha　→　平成17年　444ha
【耕作放棄地】4.5倍増加
平成7年　21ha　→　平成17年　94ha
観光業
商店の廃業
17


東鳴子温泉　課題の整理
温泉
＝　本物
うまく広報ができていない
観光
温泉の観光化
湯治客の変化
コンテンツの必要性
交流
イベント主体者が旅館
地域住民の連携の必要性
東鳴子温泉の近年の課題は
「広報不足」「コンテンツ不足」「地域の連携不足」
18

東鳴子活性化プロジェクト　全体図



19

現状

留学生
- 日本のことを学ぶきっかけがない
- 活動のフィールドが多摩のみ
- 多摩大生との交流の場が少ない

多摩大学
- 留学生の受入を増やしたい

学生
- 留学生との交流の場が少ない

東鳴子温泉
- 湯治をPRしたい
- 国内市場の飽和
- 湯治に適したコンテンツが少ない
- 「湯治」のマーケティングの必要性
- 地域が一体となっていない

提案

多摩大学×東鳴子ゆめ会議　国際交流プロジェクト

- 日本文化を学ぶ
  - 留学生と湯治体験
- 地方のありかたを考える
  - 出前授業
  - 現代の湯治を考える
- 安心安全な食
  - 農業体験

効果

- ブログで発信
- 湯治をPR
- 留学生受け入れ態勢の充実
- 教授の慰労
- 地域の現状を知る
- インターゼミの同窓会の場
- 留学生との交流がはかれる
- コンテンツが増える
- 長期的なイベントが開ける
- 話題性がある
- 地域間の交流がはかれる
- 国際交流がはかれる

20

展望

全学生1割の留学生にするためには、
留学生の満足度も上げていかなければならない

多摩大学　留学生戦略

- ロシア
- 韓国
- 中国
  - ウイグル 自治区の大学
  - しんきょう
  - 天津大学
  - 留学生

インターゼミ

- 4期生
- 3期生
- 2期生
- 1期生
  - インターゼミ生

多摩大学の国際化と共に、
東鳴子も国際化していく

OB・OGとの交流
＝様々な業種と交流

参考文献・フィールドワーク

参考文献

- 鳴子温泉郷における湯治客の地域的特性
- 構造改革特別区域計画　大崎市
- 湯治と農山村の資源を活かした地域再生の取り組み～現代版湯治 鳴子スタイル～
- 鳴子温泉郷ツーリズム「鳴子スタイル」(宮城県大崎市)
- 温泉地の旅館経営における二つの方向性――＜資本力＞と＜おもてなし＞の複合因果に関する計量分析――
- 事例①地域におけるものづくり支援機関のあり方に関する調査
- 事例②神奈川県森林地域振興調査事業
- 事例③大学の地域貢献を考える
- 事例④地域活性化における交通コミュニティ増加
- 事例⑤赤城村地域産業地場育成
- 事例⑥観光を軸とした地域観光産業育成
- 事例⑦地域メディアを通じた地域振興
- 知って楽しむ　松田教授の温泉道　松田忠徳　中西出版
- 知るほどハマル！温泉の科学　松田忠徳　技術評論社
- 過疎地域自立促進方針　宮城県(平成18年度3月)
- 東鳴子温泉における小規模旅館の経営動向　浦達雄(2006)
- 「たび」を意識した地域づくり　～観光による地域活性化事例研究～　清水慎一・小林裕和(2006)　日本観光研究学会第21回
- 動的な生態観光系としての温泉地におけるマーケティング戦略～山形県小野川温泉を事例として～　小林裕和(2002)
- 鳴子温泉案内 / 山本晃. -- 鳴子温泉組合事務所, 大正11
- 鳴子温泉郷. -- 宮城県鳴子町観光協会, 1980.9
- 鳴子温泉遊覧案内 / 石塚直太郎. -- 石塚直太郎, 大正13
- 鳴子町史 / 鳴子町史編纂委員会. -- 鳴子町, 1974.5-1978.12
- 温泉諸獄存状況調査報告書 昭和55年度. -- 宮城県保健環境部. -, 1981.8
- 山村振興コンサルタント意見書 no.205～239 / 山村振興調査会. -- 山村振興調査会, 1975
- 山村振興コンサルタント意見書 no.384～439. -- 全国農業構造改善協会, 1981.12-1983.3
- 宮城県鳴子町温泉源基盤整備調査報告書. -- 宮城県衛生部, 1975
- 「宮城県東鳴子温泉における湯治場の地域変容と活性化」温泉地域研究・3号、11～18頁。
- シンポジウム 鳴子温泉郷における湯治の現状とあり方
- 米を、あきらめない―宮城県大崎市・鳴子温泉郷 (特集 先頭に立った市町村 格差なんて吹き飛ばせ)
- 鳴子温泉郷. 新風土記
- 観光庁　http://www.mlit.go.jp/kankocho/
- 東鳴子温泉・東鳴子ゆめ会議　http://koiyade.gozaru.jp/
- 鳴子温泉郷ツーリズム　http://www.naru&ostyle.com/index.html
- 社団法人日本観光協会 http://www.nihon-kankou or.jp/home/index.html
- 東鳴子温泉　旅館大沼　http://www.ohnuma co.jp/

フィールドワーク

- 東鳴子温泉(阿部2回、宮城・山本・石川・久恒1回)
- 鳴子温泉(阿部2回、宮城・山本・石川1回)
- 川渡温泉(阿部・宮城・山本1回)　・鬼首温泉(同)
- 中山平温泉(同)
- 天然温泉いこいの湯　(阿部・宮城・山本・久恒1回)
- 箱根温泉　(阿部・山本・久恒1回)
- 平湯温泉(山本1回)

22

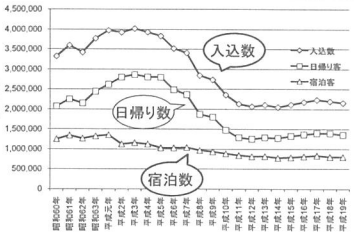
ご清聴ありがとうございました

23

背景　鳴子温泉郷客足の減少

平成4年　入込数　約400万人
平成18年入込数　約220万人

10年前の約半分まで減少

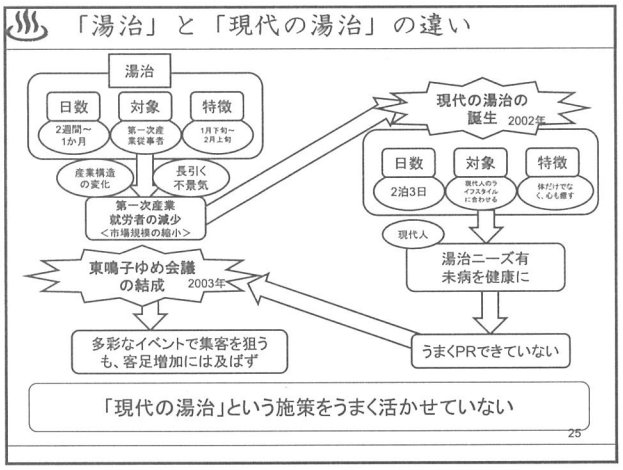


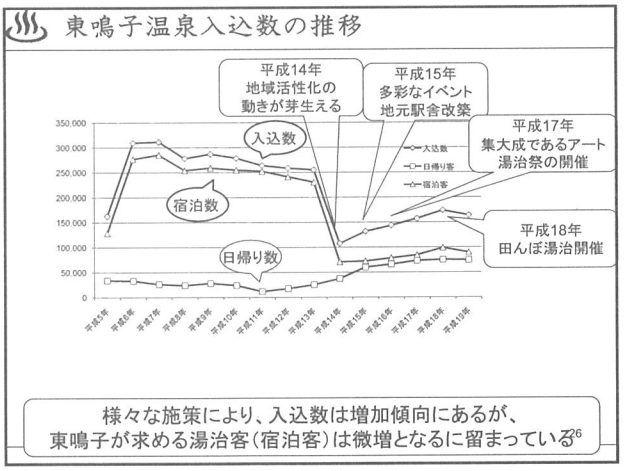
原因

- 景気の低迷
- 第一次産業従事者の減少
- 観光地、慰安施設の増加
- 鳴子温泉エリアは山間地域

従来の市場流通中心の生産振興から新たな振興策が必要

24


「湯治」と「現代の湯治」の違い
湯治
日数
2週間～1か月
対象
第一次産業従事者
特徴
1月下旬～2月上旬
産業構造の変化
長引く不景気
第一次産業就労者の減少
＜市場規模の縮小＞
現代の湯治の誕生 2002年
日数
2泊3日
対象
現代人のライフスタイルに合わせる
特徴
体だけでなく、心も癒す
現代人
湯治ニーズ有
未病を健康に
うまくPRできていない
東鳴子ゆめ会議の結成 2003年
多彩なイベントで集客を狙うも、客足増加には及ばず
「現代の湯治」という施策をうまく活かせていない
25

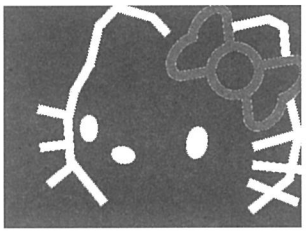

東鳴子温泉入込数の推移
平成14年
地域活性化の動きが芽生える
平成15年
多彩なイベント
地元駅舎改築
平成17年
集大成であるアート湯治祭の開催
平成18年
田んぼ湯治開催
入込数
宿泊数
日帰り数
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
入込数
日帰り客
宿泊客
様々な施策により、入込数は増加傾向にあるが、
東鳴子が求める湯治客（宿泊客）は微増となるに留まっている
26

松本祐一EXゼミ

「集客施設のマーケティング」

サンリオピューロランドの課題解決
イベントの運営

サンリオピューロランド問題解決ゼミ



2月12日金曜日

12月20日イベント開催！

SANTAMAロマンティックナイト

～夜のピューロで仮装パーティー～

目次

- サンリオピューロランドゼミの概要
- 目的
- EXゼミ1年の流れ
- イベント企画
- イベント実施、成果
- 地域活性化との結びつき
- 有用性のPR
- まとめ

サンリオピューロランドゼミの概要

多摩地域のレジャー施設のひとつであるサンリオピューロランドと多摩大学は、「相互魅力up」「共に学び共に成長する」「同地域に存在する施設としての長期的・多面的な関わり」を目的とした、産学協同プロジェクト。

サンリオピューロランドゼミの概要

ゼミ名称
「集客施設のマーケティング
～サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営～」

担当教員：松本祐一（多摩大学総合研究所　准教授）

学生：多摩大学経営情報学部2・3年生（男性10名・女性11名）

ゼミの目的

サンリオピューロランドが抱える問題

学生来場者数の減少

⇨ 本ゼミの目的

Mission①　サンリオピューロランドに学生を入場させる
Mission②　多摩地域活性化

EXゼミ1年の流れ

5月24日　ピューロランド　フィールドワーク

7月12日　オープンキャンパス参加

8月25、26日　ダンスプロジェクト運営体験

11月3日　雲雀祭（文化祭）参加

11月以降　イベント企画

ピューロランドフィールドワーク

EXゼミ1年の流れ

5月24日　ピューロランド　フィールドワーク

↓

7月12日　オープンキャンパス参加

8月25、26日　ダンスプロジェクト運営体験

11月3日　雲雀祭（文化祭）参加

オープンキャンパス参加

EXゼミ1年の流れ

5月24日　ピューロランド　フィールドワーク

7月12日　オープンキャンパス参加

↓

8月25、26日　ダンスプロジェクト運営体験

11月3日　雲雀祭（文化祭）参加

ダンスイベント運営体験

EXゼミ1年の流れ

5月24日　ピューロランド　フィールドワーク

7月12日　オープンキャンパス参加

8月25、26日　ダンスプロジェクト運営体験

⇩

11月3日　雲雀祭（文化祭）参加

文化祭参加

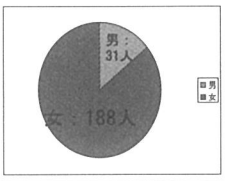
イベント企画に向けて
文化祭でのアンケート調査

文化祭でのアンケート調査
学生のサンリオピューロランドに対する意識調査

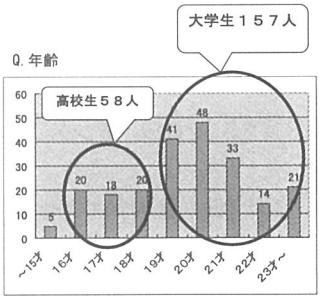
調査概要

実施日：10月31日、11月1日
実施場所：多摩大学聖ヶ丘キャンパス
実施方法：質問紙によるアンケート調査
実施目的：学生のサンリオピューロランドへの意識調査

Q. 性別

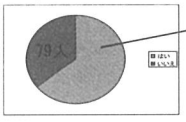


Q. 年齢



背景
サンリオピューロランドへの入場経験がある学生

Q. サンリオピューロランド入場経験

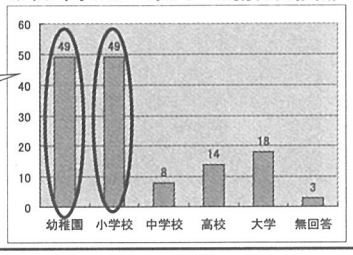


ある（141人）／220人中

220人中
幼稚園の頃　49人
小学校の頃　49人

約１００人/220人中が
幼少の頃以来
来場していない

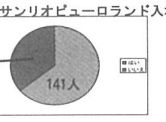
Q. サンリオピューロランドへの最後の入場時期



背景
サンリオピューロランドへの入場経験がない学生

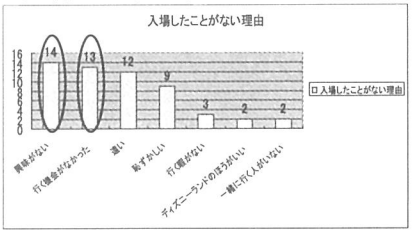
Q. サンリオピューロランド入場経験

ない（79人）／200人中



Q. サンリオピューロランドへ行ったことがない理由

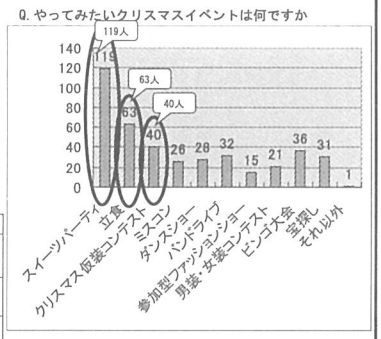
200人中
１位：興味がない（14人）
２位：行く機会がなかった（13人）



イベント企画に向けて

高校生・大学生のやってみたいクリスマスイベント

220人中
1位:スイーツパーティ(119人)
2位:立食(63人)
3位:クリスマス仮装コンテスト(40人)



200人中
1位:スイーツパーティ (119人)
2位:立食 (63人)
3位:クリスマス仮装コンテスト (40人)

イベント企画に向けて

設定
対象
1位. 大学生

現状
最後の入場時期
サンリオピューロランド
卒業生の存在
1位. 幼稚園
小学校

問題
行かない理由
1位. 興味がない
2位. 行くきっかけがない

今回の
イベント企画
サンリオピューロランド
卒業生にとって行きたくなる
イベント企画

スイーツパーティ
立食
クリスマス仮装コンテスト

イベント実施・成果

イベント名
『SANTAMAロマンティックナイト』
～夜のピューロで仮装パーティ～

実施日:2009年12月20日
18:00開演
会場:サンリオピューロランド
参加者:多摩地域在学の大学生
主催:多摩大学サンリオピューロランドゼミ
株式会社サンリオエンターテイメント
集客人数:131人
参加大学:13大学
売上:236, 000円
利益:26, 753円

イベントプログラム
①J-PEEPSパフォーマンス
②市長の言葉
③クリスマス仮装コンテスト
④立食&ケーキゲーム
⑤駒沢女子大学チアパフォーマンス
⑥コンテスト結果発表&表彰
⑦ゼミ長の言葉

宣伝
集客特別班による
多摩地域大学訪問
+
ポスター、チラシ
ホームページ
による広報活動

多摩地域活性化の成果

多摩地域の商業施設活性による地域活性化	多摩地域学生の交流による地域活性化
ケーキ屋の紹介【立食】 飲食店割引券配布【プレゼント】 各協賛店からの反響 「参加できてよかった」 「学生の集客数の向上」	13大学参加者 同士の交流【イベント中】

さらに・・・

イベント後、配布割引券を使っての協賛店の利用&交流をしていただけることに成功！！

有用性のPR

- 実務的イ[illegible]に携われる
- 実[illegible]できる
- 集[illegible]
- 亦[illegible]

他では学べない！

イベント実施ムービー

プロジェクト型地域学習の評価

酒井麻衣子
経営情報学部准教授・地域活性化マネジメントセンター委員

プロジェクト型地域学習の評価

～2009年度地域プロジェクト
参加学生アンケート結果～

2010年2月12日（金）

2

目的

- 「地域に出て、みずから動いて学ぶ」スタイルのプロジェクト型地域学習が、参加学生の意識や意欲にどのような変化をもたらしたか、その教育効果を検証する。
- 次年度以降も調査を行うことで、教育方法・教育内容の継続的改善を目指す。

3

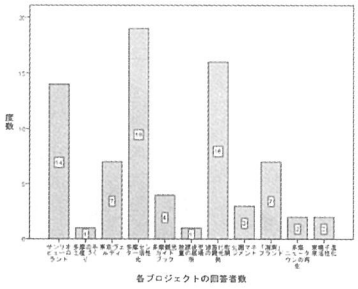
アンケート内容

- 学年、性別、参加プロジェクト名称
- 問1．本プロジェクトに参加して、印象に残った経験はありましたか？
- 問2．本プロジェクトに参加して、大学で学ぶことに対する意欲は変わりましたか？
- 問3．地域に出て行く学びのスタイルは、従来の授業やゼミと異なる良い点がありましたか？
- 問4．本プロジェクトはあなたにとって有益でしたか？
- 問5．本プロジェクトを他の学生に参加するように勧めたいですか？
- 問6．地域プロジェクト全体について、気付いた点がありましたら自由にお書きください。

4

各プロジェクトの回答者数

- のべ170名程度の参加学生のうち、76名が回答

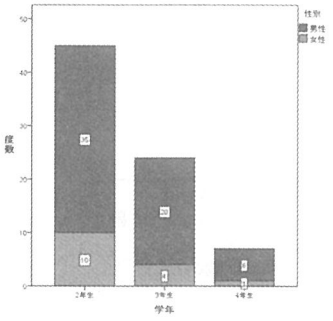


5

学年と性別

学年 と 性別 のクロス表

			性別		合計
			男性	女性	
学年	2年生	度数	35	10	45
		総和の %	46.1%	13.2%	59.2%
	3年生	度数	20	4	24
		総和の %	26.3%	5.3%	31.6%
	4年生	度数	6	1	7
		総和の %	7.9%	1.3%	9.2%
合計		度数	61	15	76
		総和の %	80.3%	19.7%	100.0%



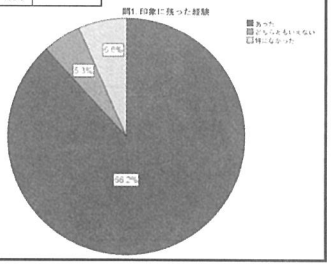
➢男性が8割、女性2割。多摩大学の男女比率と大幅に異ならない。
➢2年生が6割と過半数。3年生が3割を占める。

6

問1．本プロジェクトに参加して、印象に残った経験はありましたか？

問1. 印象に残った経験

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あった	67	88.2	88.2	88.2
	どちらともいえない	4	5.3	5.3	93.4
	特になかった	5	6.6	6.6	100.0
	合計	76	100.0	100.0	



➢「あった」が約88%。

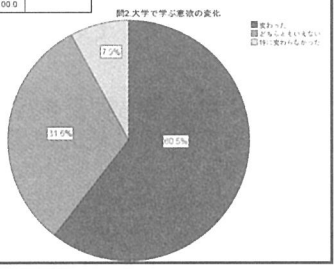
➢具体的内容としては、地域に出て体験した活動が多く挙げられていた。

7

問2. 本プロジェクトに参加して、大学で学ぶことに対する意欲は変りましたか？

問2.大学で学ぶ意欲の変化

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	変わった	46	60.5	60.5	60.5
	どちらともいえない	24	31.6	31.6	92.1
	特に変わらなかった	6	7.9	7.9	100.0
	合計	76	100.0	100.0	



➢「あった」が約60%。

➢具体的内容は次項参照。

8

問2. 大学で学ぶことに対する意欲が変わった具体的内容（自由記述）

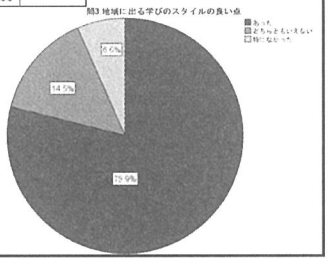
- 自発性、積極性を得た
  - ✓ 自発的に学ぶことができた。
  - ✓「大学で学ぶこと＝受動的」でないと感じた。
  - ✓ 学ぶ意識が強くなった。
  - ✓ 本気で取り組めば結果が付いてくる。何事もやってみようと思った。…
- 行動力の大切さを知った
  - ✓ 実際に動くことが大事だと実感した。
  - ✓ 自ら足を運ぶことで意欲がました。
  - ✓ 机の上の勉強だけではスキルにならない。…
- 問題意識を持つようになった
  - ✓ 社会に対して関わりが持てることが分かった。
  - ✓ 自ら問題意識をもって研究することの難しさとやりがいを感じた。
  - ✓ 自分たちが学んでいる手法を地域おこしに応用することができないか、と考え続けた。
  - ✓ 地域の話題に関心を持つようになった…

9

問3. 地域に出て行く学びのスタイルは、従来の授業やゼミと異なる良い点がありましたか？

問3.地域に出る学びのスタイルの良い点

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あった	60	78.9	78.9	78.9
	どちらともいえない	11	14.5	14.5	93.4
	特になかった	5	6.6	6.6	100.0
	合計	76	100.0	100.0	



➢「あった」が約79%。

➢具体的内容は次項参照。

10

問2. 地域に出て行く学びのスタイルの良い点具体的内容（自由記述）

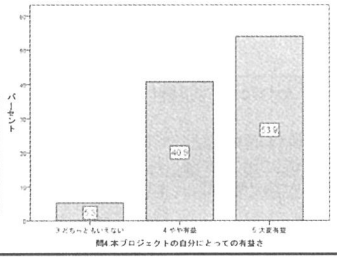
- 現場の実体験、リアルさ
  - ✓ 実際に行かなければ分からないことがある。
  - ✓ 自分の目でしっかり確かめられる。
  - ✓ 外に出ることでリアルな結果がわかった。
  - ✓ 机上の理論に終わらない点。…
- 人々とのコミュニケーション
  - ✓ フィールドワークでいろいろな人に出会えた。
  - ✓ 人とのつながりを肌で感じられた。
  - ✓ 地域の人々と交流することができた。…
- 行動力の必要性
  - ✓ アクティブになれた。
  - ✓ 受け身ではなく自分たちで考え行動する体験ができた。…
- 講義にはない新鮮さ
  - ✓ 新鮮な気持ちで取り組める。
  - ✓ 開放的な授業で新鮮な感覚だった。…

11

問4. 本プロジェクトはあなたにとって有益でしたか？

問4.本プロジェクトの自分にとっての有益さ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	3.どちらともいえない	4	5.3	5.3	5.3
	4.やや有益	31	40.8	40.8	46.1
	5.大変有益	41	53.9	53.9	100.0
	合計	76	100.0	100.0	



➢5段階評価では「5:大変有益」が最も多く約54%。

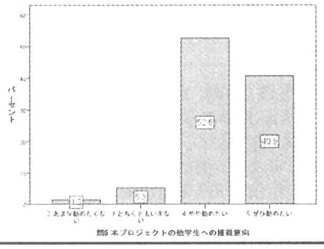
➢「5:大変有益」「4:やや有益」で全体の約94%を占めた。

12

問5. 本プロジェクトを他の学生に参加するように勧めたいですか？

問5.本プロジェクトの他学生への推奨意向

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	2.あまり勧めたくない	1	1.3	1.3	1.3
	3.どちらともいえない	4	5.3	5.3	6.6
	4.やや勧めたい	40	52.6	52.6	59.2
	5.ぜひ勧めたい	31	40.8	40.8	100.0
	合計	76	100.0	100.0	



➢5段階評価では「4:やや勧めたい」が最も多く約52%。

➢「5:ぜひ勧めたい」「4:やや勧めたい」で全体の約92%を占めた。

参加教員のコメント

※順不同

「多摩センター地区活性化支援」　酒井麻衣子准教授

■参加学生

山岸竜一、荒井優範、飯塚俊太郎、清水太郎、橋詰学、宮谷明宏、山本博紀、川島達也、田中亮、平松健太、池田和教、井上祐樹、大房祐介、尾崎愛、河合大介、篠崎丞士、庄司貴博、杉本秀平、杉山紘規、瀧川進一、村山英雄

■ＰＪの目的①地域課題解決面

多摩センター地区は、1965（昭和40）年より開発の始まった“多摩ニュータウン”の中心区域であり、緑豊かな公園、多彩な商業施設や文化施設に加え、民間企業の本社や研究所などの誘致も進む都心近郊の計画都市である。高度経済成長期にかけて都心のベットタウンとして発展したのち、企業や大学の誘致を進め自立都市への転換を図っているが、住民の高齢化、住宅・施設の老朽化などのいわゆる「オールドタウン」化問題に加え、近年の経済の低迷や近隣の都市間競合の影響で、相対的な地盤沈下が指摘されている。

本ＰＪではこの課題に対し、マーケティングの観点から問題解決ための仮説を立て、街頭アンケート調査を実施し、その結果に基づいて多摩センター地区に人を呼び込み活性化する施策を提案することを目的とした。

■ＰＪの目的②教育面

当ゼミの従来の研究活動では、企業のマーケティング課題に対し、リサーチやデータマイニングを用いて数量的なアプローチすることが多い。そのため、本ＰＪにおいて「地域」という未知の“商品”を対象として、街頭で見知らぬ人に声を掛けて生の声を集め、それに基づいて課題解決を目指すという、これまでにない学習体験をさせることを目的とした。

■活動内容・経過記録

計21名のゼミ生が４つのグループを作り、大テーマである「多摩センター地区の活性化」の下、多摩センター地区における対面式の街頭調査を実施することを前提とし、それぞれが以下のようなテーマを定め、研究を進めた。

テーマ１：もっと広告を出そう
テーマ２：学生の活動・交流を利用した多摩センターの活性化案
テーマ３：多摩センター駅利用者を呼び込もう
テーマ４：多摩センター活性化のための若者を対象としたイベント企画

■成果

各テーマについて研究の背景、目的、調査概要、分析結果、解釈、施策提案が研究成果としてまとめられ、成果報告会において各グループからプレゼンテーションが行われた。

臨席いただいた教員や多摩センター地区連絡協議会の会員企業の方には、若者ならではの新鮮な観点が多く見られたことが評価された。学生にとっても、地域に出て生の声に触れるという経験は、机上で理論やデータを扱うだけでは決して得られないものであった。ここで体験した苦労や刺激が、今後の学習における彼らの視野を広げてくれるものと考える。

「猪苗代観光開発研究～現地調査結果を中心にして～」浜田正幸准教授

■参加学生

遠藤弘、梶原優希、菊地太郎、熊澤真由、鈴木秀太、土屋直裕、西村洋祐、横山系、上阪翔、尾崎舞子、今野勇人、佐藤成朗、森大、 丸田夢士、 河野寛人斉藤崇士、田中信行、湯座悠、平野隆之、名波圭吾、伊藤梢、今津裕、櫻井駿、戸塚大輔、中山豪太、 青山雄大、石倉菜未、小野真樹、加曾利透、神永健人、菊池麻衣、小林憲太郎、小林祐、斎藤美希、桜井雅之、田口裕里英、田所佑基、中島なつ美、森下陽介、山越あすか、和久井大輔、渡部亜裕子

■ＰＪの目的①地域課題解決面

福島県猪苗代地域の観光活性化

■ＰＪの目的②教育面

・問題解決技法の実践　フィールドワークの設計・実践
　Fact データの取扱い（処理・分析）
・調査報告書の書き方実践
・社会人とのコラボレーション

■ＰＪの活動内容・経過記録

2008 年度　春秋学期ゼミ　フィールドワークの方法（演習）　問題解決技法（演習）
2009.04　浜田ゼミ内プロジェクト結成　社会人（関係者）とのキックオフ
2009.04～　ネット検索・調査（猪苗代観光データ、ケーススタディ）
2009.09　　現地調査・集計・分析　報告書作成　報告会

■成果

・調査報告書
　猪苗代町議会議長、猪苗代観光協会、同左協会員への調査結果報告・提案
　福島民報 掲載

「多摩のシティセールス　多摩の観光ガイドブックをつくる」中庭光彦准教授

■ＰＪの目的①地域課題解決面

多摩市居住者、ならびに多摩市以外からの来街者に多摩市の魅力を広め、普及する。

■ＰＪの目的②教育面

個人観光客が主流となるニューツーリズムの時代にあっては、日常の生活空間が観光資源としての価値をもちうることを認識してもらう。そのために、実際の街を歩き、インタビュー取材を行い、調査～クリエイティブの過程を体験してもらい、社会人の対人コミュニケーションの重要性を体感させる。

■ＰＪの活動内容・経過記録

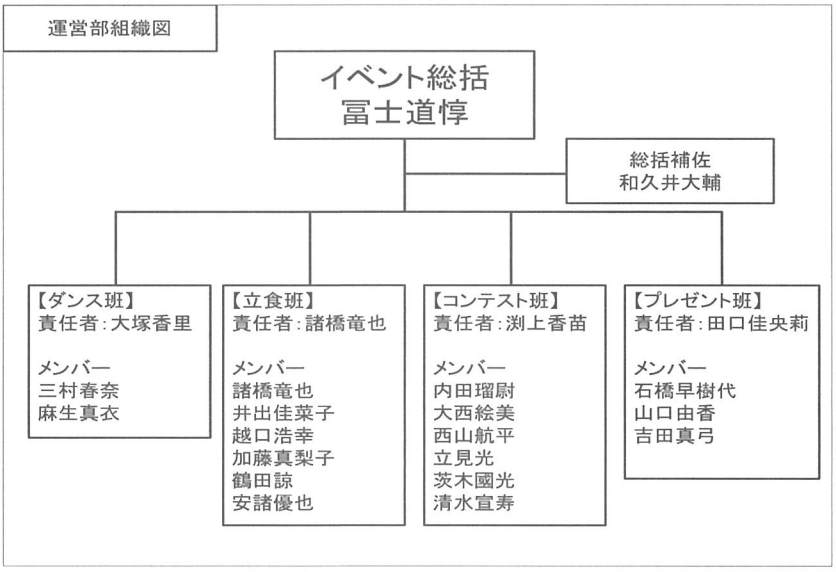
5月末　多摩市内のフィールドワーク
9月末　各自、取材対象を特定し、取材開始。
12月末　観光ガイドブックの原稿を入稿
1月　ガイドブック取材内容を各取材先に確認

■成果

学生各個人の対人関係形成能力が変化した。
地域を観察する視点が変化した。

「集客施設のマーケティング～サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営」松本祐一准教授

■参加学生氏名（全員）



■課題解決面から見たＰＪの目的

サンリオピューロランドは、幼児を中心に人気のある集客施設だが、大学生ぐらいの若者には来場しにくいイメージがある。そこで、同世代の若者たちをサンリオピューロランドに呼び込むためには、どうしたらよいか。また、地域の集客施設として、いかに地域活性化に寄与できるか。これらの課題を解決する手段として、ゼミオリジナルのイベントを企画し、運営する。

■教育面から見たＰＪの目的

設定された課題の解決のために、イベントを企画運営するなかで、イベントの顧客の選定、価値設定、プロモーションなど、集客施設のマーケティングに必要な知識や方法を学ぶ。また、ゼミは基本的には学生の自主運営とし、１年間のプロジェクトマネジメントを経験することで、座学では学ぶことができない経営の実践的な学習を行う。

■ＰＪの活動内容・経過記録

４月～５月	ゼミのチームビルディング
５月２４日	サンリオピューロランドフィールドワーク
６月	集客施設におけるイベントマネジメント事例の研究
７月１２日	オープンキャンパスでの高校生のピューロランドフィールドワーク支援 模擬授業（ゼミ）の実施
７月	本番の企画案の検討
８月	サンリオピューロランドのイベント「DANCE STAGE PROJECT」 のお手伝い。イベント運営体験
１０月	本番企画の検討
１１月	イベント決定・準備 学園祭参加
１２月２０日	「SANTAMA ロマンティックナイト」開催。
１月	イベントの反省、報告書作成、報告会準備。

■成果

「SANTAMA ロマンティックナイト」は多摩地域を大学生の交流を目的に、仮装コンテストや同じ大学生のパフォーマンスなどを行うと同時に、多摩市のスイーツ店の紹介やプレゼントに多摩市の居酒屋などの割引券などを入れて、まちのリピーターづくりを目指した。

参加人数は１３１名、参加大学２０校、売上は 236,000 円で、収支は 26,753 円の黒字となった。また、イベントには、多摩市市長が来場し、各種メディアにも取り上げられ、初年度としては、十分な成果をあげることができた。

「東鳴子温泉の活性化」久恒啓一教授

■テーマ名

東鳴子温泉の活性化

■参加学生氏名（全員）

阿部剛平・宮城和也・山本 信子・石川健太

■課題解決面から見たＰＪの目的

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年などをまたいで塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔らかい発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付ける。「宮城県東鳴子温の活性化」をテーマに、仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島塾長以下学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による付加価値を高め、創造的課題解決策を志向する。

■教育面から見たＰＪの目的

受講生自身による問題発掘・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へいたるプロセスの中で、寺島塾長以下学内の教員や社会で活躍する学外の賢人による付加価値を高め、創造的課題解決策を策定し、該当地域への提言を行う。

■ＰＪの活動内容・経過記録

2009 年 6 月 6 日 中間発表
2009 年 7 月 25 日　前期最終発表
2009 年 8 月 20 日　前期最終発表
2009 年 12 月 26 日　東鳴子温泉活性化に向けて都会の若者からの提言

■成果

Ａ４ペーパー34 枚の論文を執筆。
東鳴子温泉活性化に向けて都会の若者からの提言

「東京ヴェルディ地域活動支援・多摩の手土産づくり支援」久恒啓一教授

■担当教員

久恒啓一（ティーチングアシスタント松本祐一）

■参加学生氏名（全員）

【東京ヴェルディ班】

寺下大志、内藤広基、土田和哉、西口成峰、高倉　徹、碇　那之、笠　勇夫、山口　渉

【多摩の手土産班】
河瀬伴典、山本雅章、橋本直人、鈴木佑宜

■課題解決面から見たＰＪの目的
【ゼミ全体の目的】
学部の教育目標「産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる」のために、久恒ゼミでは、問題解決の視点としての「顧客満足」、問題解決の武器としての「図解思考」を身につけることを目的としている。

【東京ヴェルディ地域活動支援】
多摩市は、Ｊリーグの東京ヴェルディのホームタウンであるが、多摩市にヴェルディのファンは多くはない。また、クラブは、地域において、様々な地域貢献活動を行っているが、その献身的な活動が実際の試合の集客に結びついていない。この課題を解決するために、多摩市の小学生を無料招待し、多摩市関係各機関が協力する「多摩市サンクスマッチ」の集客イベントを企画運営する。

【多摩の手土産づくり支援】
多摩ニュータウンに住んだ第一世代は、地方出身者が中心で「いなか」を持っている。帰省する際、手土産を持って帰るのだが、多摩ニュータウン独自の手土産というのがない。そこで、多摩焼という多摩の土を使った陶器を開発した焼き物世代交流会の発案で、多摩ニュータウンの手土産の発見・開発がスタートし、その事業支援を行う。
特に多摩の特産品を知ってもらうためのＷＥＢサイトを企画・制作することで、本事業を支援する。

■教育面から見たＰＪの目的
【ゼミ全体の目的】
地域と社会の問題解決の最前線プロジェクトに関わることによって、問題解決力を身につけることを目的として多摩ニュータウン地域に関わる以下の具体的なプロジェクトを行った。

【東京ヴェルディ地域活動支援】
上記とともに、プロジェクトマネジメント、イベントの企画運営の技法を学ぶ。

【多摩の手土産づくり支援】
上記とともに、ＷＥＢサイト企画と運営の方法を学び、観光開発などの方法論も学ぶ。

■ＰＪの活動内容・経過記録
【東京ヴェルディ地域活動支援】
5月～7月　企画
8月～9月　フラッグづくりイベント準備

9月5日・6日　永山名店街秋祭りにて、応援フラッグづくりイベントを開催
9月13日　　多摩市サンクスマッチにて、応援フラッグづくりイベントを開催
10月　　アンケートの集計・分析
12月5日　　永山名店街の「夢明りイベント」に参加
1月　　報告書のまとめ

【多摩の手土産づくり支援】
5月　多摩焼き物世代交流会によるオリエンテーション
～9月　企画、陶芸体験
10月～　サイトの企画、取材など
3月　　サイトの完成

■成果
【東京ヴェルディ地域活動支援】
地域で子供向けの応援フラッグづくりイベントを開催することで、そのフラッグを持って、多摩市サンクスマッチに来場してもらうという試み。他ゼミを引き継ぐ形で行ったが、前回、フラッグイベント参加者の来場は1名だったが、今回は9名に増加した。

【多摩の手土産づくり支援】
多摩市の市民提案型まちづくり事業補助金の交付を受け、サイト制作自体は、専門業者に委託し、学生は企画と取材を担当した。3月末に完成。

「公園マネジメント研究」久恒啓一教授

■担当教員
久恒啓一（ティーチングアシスタント中庭光彦）

■参加学生氏名（全員）
宮城和也、相星将駿、春風良太、松本優太、野田拓朗

■課題解決面から見たＰＪの目的
パートナーとして協力いただいた八王子市長池公園の抱える課題を糸口に、公園マネジメントの枠組みと課題を調査する。

■教育面から見たＰＪの目的
様々な公園を各自が調査し、比較を行うことで、公園マネジメント上の特性を知る。

■ＰＪの活動内容・経過記録

5月～7月　企画

6月　八王子長池公園を視察

9月～12月　各自が山下公園、昭和記念公園、上野公園、狭山公園、井の頭公園などを調査し比較検討。

1月　報告書のまとめ

■成果

指定管理者制度による公園管理が普及する中、公園のもつ経営面からの特徴、比較の視点を現場調査により実感できたこと。

多摩大学地域プロジェクト2009年度報告書

発　行 ： 多摩大学地域活性化マネジメントセンター
〒206－0022
東京都多摩市聖ヶ丘4－1－1
TEL. 042－337－7766

発行日 ： 2010年7月